

2025年度 大学院社会学研究科 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

【発行日：2025/5/1】最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【X6000】基礎演習1 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	1
【X6001】基礎演習2 [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	2
【X6002】基礎演習3 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	3
【X6003】社会学基礎演習1 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	4
【X6004】社会学基礎演習2 [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	5
【X6005】社会学基礎演習3 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	6
【X6006】メディア社会学基礎演習1 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	7
【X6007】メディア社会学基礎演習2 [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	8
【X6008】メディア社会学基礎演習3 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	9
【X6009】統計分析法 [胡中 孟徳] 秋学期授業/Fall	10
【X6010】調査研究法 [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	11
【X6011】質的資料分析法 [堀川 三郎] 春学期授業/Spring	12
【X6012】メディア研究実習1 [山口 仁] 春学期授業/Spring	13
【X6013】メディア研究実習2 [水野 剛也] 春学期授業/Spring	14
【X6014】メディア研究実習3 [橋爪 絢子] 春学期授業/Spring	15
【X6015】理論社会学1 (ベーシックインカム研究) [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	16
【X6016】理論社会学2 (現代の批判的社会理論) [鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	17
【X6017】メディア理論1 (ジャーナリズム研究) [別府 三奈子] 秋学期授業/Fall	18
【X6018】メディア理論2 (記憶と歴史の社会学) [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	19
【X6019】理論社会学基礎1 [徳安 彰] 春学期授業/Spring	20
【X6020】理論社会学基礎2 [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	21
【X6021】社会学特殊研究1 (支援とケアの社会学) [三井 さよ] 春学期授業/Spring	22
【X6022】社会学特殊研究2 (文化社会学) [佐幸 信介] 春学期授業/Spring	23
【X6023】社会学特殊研究5 [鷹田 佳典] 春学期集中/Intensive(Spring)	24
【X6024】社会学特殊研究6 [坂上 香] 春学期集中/Intensive(Spring)	25
【X6025】メディア特殊研究1 (知的財産権法) [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	26
【X6026】メディア特殊研究2 (ブランド広告の意味研究) [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	27
【X6027】学際研究1 (若年移行期とYouth Work) [平塚 眞樹] 秋学期授業/Fall	28
【X6028】学際研究2 (組織とネットワーク) [宇野 斉] 秋学期授業/Fall	29
【X6029】社会科学研究法1 [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	30
【X6032】外国書講読1 (英語) [堀川 三郎] 春学期授業/Spring	31
【X6033】外国書講読2 (英語) [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	32
【X6034】外国書講読1 (英語) [鈴木 宗徳] 春学期授業/Spring	33
【X6035】外国書講読2 (英語) [鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	34
【X6036】外国書講読1 (仏語) [高橋 愛] 春学期授業/Spring	35
【X6037】外国書講読2 (仏語) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	36
【X6038】外国書講読1 (独語) [濱中 春] 春学期授業/Spring	37
【X6039】外国書講読2 (独語) [濱中 春] 秋学期授業/Fall	38
【X6040】外国書講読1 (中国語) [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	39
【X6041】外国書講読2 (中国語) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	40
【X6042】社会学原典講読 [二村 まどか] 春学期授業/Spring	41
【X6052】修士論文指導ⅠA [藤田 真文] 春学期授業/Spring	42
【X6053】修士論文指導ⅠA [三井 さよ] 春学期授業/Spring	43
【X6054】修士論文指導ⅠA [平塚 眞樹] 春学期授業/Spring	44

【X6055】	修士論文指導ⅠA	〔恵羅 さとみ〕	春学期授業/Spring	45
【X6062】	修士論文指導ⅠB	〔藤田 真文〕	秋学期授業/Fall	46
【X6063】	修士論文指導ⅠB	〔三井 さよ〕	秋学期授業/Fall	47
【X6064】	修士論文指導ⅠB	〔平塚 眞樹〕	秋学期授業/Fall	48
【X6065】	修士論文指導ⅠB	〔恵羅 さとみ〕	秋学期授業/Fall	49
【X6072】	修士論文指導ⅡA	〔藤田 真文〕	春学期授業/Spring	50
【X6073】	修士論文指導ⅡA	〔三井 さよ〕	春学期授業/Spring	51
【X6074】	修士論文指導ⅡA	〔恵羅 さとみ〕	春学期授業/Spring	52
【X6075】	修士論文指導ⅡA	〔鈴木 智之〕	春学期授業/Spring	53
【X6076】	修士論文指導ⅡA	〔藤代 裕之〕	春学期授業/Spring	54
【X6082】	修士論文指導ⅡB	〔藤田 真文〕	秋学期授業/Fall	55
【X6083】	修士論文指導ⅡB	〔三井 さよ〕	秋学期授業/Fall	56
【X6084】	修士論文指導ⅡB	〔恵羅 さとみ〕	秋学期授業/Fall	57
【X6085】	修士論文指導ⅡB	〔鈴木 智之〕	秋学期授業/Fall	58
【X6086】	修士論文指導ⅡB	〔藤代 裕之〕	秋学期授業/Fall	59
【X6311】	博士論文指導ⅡA	〔佐藤 成基〕	春学期授業/Spring	60
【X6312】	博士論文指導ⅡA	〔堅田 香緒里〕	春学期授業/Spring	61
【X6313】	博士論文指導ⅡA	〔小林 直毅〕	春学期授業/Spring	62
【X6316】	博士論文指導ⅡB	〔佐藤 成基〕	秋学期授業/Fall	63
【X6317】	博士論文指導ⅡB	〔堅田 香緒里〕	秋学期授業/Fall	64
【X6318】	博士論文指導ⅡB	〔小林 直毅〕	秋学期授業/Fall	65
【X6321】	博士論文指導ⅢA	〔鈴木 智之〕	春学期授業/Spring	66
【X6322】	博士論文指導ⅢA	〔愼 蒼宇〕	春学期授業/Spring	67
【X6323】	博士論文指導ⅢA	〔岡野内 正〕	春学期授業/Spring	68
【X6324】	博士論文指導ⅢA	〔藤田 真文〕	春学期授業/Spring	69
【X6331】	博士論文指導ⅢB	〔鈴木 智之〕	秋学期授業/Fall	70
【X6332】	博士論文指導ⅢB	〔愼 蒼宇〕	秋学期授業/Fall	71
【X6333】	博士論文指導ⅢB	〔岡野内 正〕	秋学期授業/Fall	72
【X6334】	博士論文指導ⅢB	〔藤田 真文〕	秋学期授業/Fall	73
【X6340】	社会学総合演習A	〔社会学専攻教員〕	春学期授業/Spring	74
【X6341】	社会学総合演習B	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	75
【X6342】	社会学研究1	〔GEORGE HANN〕	秋学期授業/Fall	76
【X6343】	社会学研究2	〔鷹田 佳典〕	春学期集中/Intensive(Spring)	77
【X6344】	社会学研究3	〔坂上 香〕	春学期集中/Intensive(Spring)	78
【X6345】	社会調査法1	〔恵羅 さとみ〕	春学期授業/Spring	79
【X6346】	社会調査法2	〔胡中 孟徳〕	秋学期授業/Fall	80
【X6347】	社会調査法3	〔堀川 三郎〕	春学期授業/Spring	81
【X6348】	社会学原典研究1	〔二村 まどか〕	春学期授業/Spring	82

SOC600E1 - 1103 (社会学 / Sociology 600)

基礎演習 1

土橋 臣吾

備考（履修条件等）：**社会学基礎演習 1、メディア社会学基礎演習 1 と合同 2025年度以降入学者のみ履修可**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学研究科における研究プロセスの理解と研究進捗の支援

【到達目標】

社会学研究科に入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマの先行研究となる論文を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的に行う。その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	社会学研究科および演習の進め方に関する説明	授業全体のイントロダクション
第2回	参加者の研究計画に関する報告	各自の研究計画を報告する
第3回	先行研究の収集状況に関する報告	先行研究の収集状況について報告する
第4回	先行研究の検討(1)	主要な先行研究となる論文の輪読
第5回	先行研究の検討(2)	主要な先行研究となる論文の輪読
第6回	先行研究の検討(3)	主要な先行研究となる論文の輪読
第7回	先行研究の検討(4)	主要な先行研究となる論文の輪読
第8回	総合演習の準備	総合演習の報告レジュメの検討
第9回	総合演習の準備	総合演習の報告レジュメの検討
第10回	先行研究の検討(5)	主要な先行研究となる論文の輪読
第11回	先行研究の検討(6)	主要な先行研究となる論文の輪読
第12回	先行研究の検討(7)	主要な先行研究となる論文の輪読
第13回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告
第14回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

受講生の研究テーマに即して、主要な先行研究となる論文を相談の上で選定し、輪読の対象とする。

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習内での報告（70％）、平常点（30％）

【学生の意見等からの気づき】

総合演習の準備により多くの時間を割く形に授業構成を変更しました。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞メディア論、オーディエンス／ユーザー研究

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students understand current trends in media theory and media research.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand how to set research goals and methods as a graduate student in a media course.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Presentations and reports(70%), in-class contribution(30%).

SOC600E1 - 1104 (社会学 / Sociology 600)

基礎演習 2

鈴木 智之

備考（履修条件等）：**社会学基礎演習 2、メディア社会学基礎演習 2 と合同** 2025 年度以降入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学コースの修士課程 1 年生を対象に、修士論文の作成・執筆に向けて、研究主題の明確化とそのための方法選択に照準化して、研究デザインの構築をめざす。あわせて、学術論文作成に必要な文章の書き方を学ぶ。

【到達目標】

それぞれが執筆する修士論文のテーマを明確化し、これを具体的に回答可能な「問い」として定式化する。研究目的に照らして適切な方法と研究対象（素材・データ）を選択し、先行研究の整理を行う。最終的に、修士論文の序章に相当する文章の作成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回 1 人～複数名の報告者を決め、受講者の報告に基づき、出席者全員での討議を重ねる。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第 2 回	論文の主題と方法①	過去の論文に学ぶ①
第 3 回	論文の主題と方法②	過去の論文に学ぶ②
第 4 回	論文の主題と方法③	過去の論文に学ぶ③
第 5 回	論文の主題と方法④	過去の論文に学ぶ④
第 6 回	修士論文の構想報告①	論文構想の報告と検討①
第 7 回	修士論文の構想報告②	論文構想の報告と検討②
第 8 回	修士論文の構想報告③	論文構想の報告と検討③
第 9 回	修士論文の構想報告④	論文構想の報告と検討④
第 10 回	修士論文序章の作成①	論文序章の文章化と検討①
第 11 回	修士論文序章の作成②	論文序章の文章化と検討②
第 12 回	修士論文序章の作成③	論文序章の文章化と検討③
第 13 回	修士論文序章の作成④	論文序章の文章化と検討④
第 14 回	まとめ	レポートの提出と総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容および毎回の議論への参加（60%）、レポート（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

文化社会学、理論社会学

<研究テーマ>

語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students design their research plans for writing a master thesis. Students are expected to make the research question clear and write an introductory chapter.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and the quality of the final report (40%).

SOC600E1 - 1105 (社会学 / Sociology 600)

基礎演習 3

藤田 真文

備考（履修条件等）：社会学基礎演習 3、メディア社会学基礎演習 3 と合同 2025 年度以降入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義ではアカデミック・ライティングの基本を学びながら、修士1年目の研究成果を振り返り、修士論文のイントロダクションを執筆するまでを実践していく。

【到達目標】

修士2年生が修士1年目の研究成果をまとめ、修士論文のイントロダクションを書くことができるようになっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「アーギュメントを作る」からテキストの各章を輪読し、受講生自らの論文テーマへの適用することを繰り返していきます。最終的に修士論文のイントロダクションを書くことができるようになっているかをレポートで確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方	授業の進め方を確認する
第2回	アーギュメントを作る	テキストの輪読
第3回	アーギュメントを作ってみる	受講生の報告
第4回	アカデミックな価値を作る	テキストの輪読
第5回	アカデミックな価値を作ってみる	受講生の報告
第6回	総合演習の準備	受講生の報告
第7回	パラグラフを作る	テキストの輪読
第8回	パラグラフを作ってみる	受講生の報告
第9回	パラグラフを解析する／長いパラグラフを作る	テキストの輪読
第10回	長いパラグラフを作ってみる	受講生の報告
第11回	先行研究の引用	テキストの輪読
第12回	先行研究を引用してみる	受講生の報告
第13回	イントロダクションにすべて書く	テキストの輪読
第14回	イントロダクションを書いてみる	受講生の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

阿部幸大（2024）『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、1,800円

【参考書】

M.アルヴェッソン・J.サンドバーク（2024）『面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスチョンの作り方と育て方【第2版】』佐藤郁哉訳、白桃書房、2,727円

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告とディスカッションへの参加（評価の50％）
最終レポート（評価の50％）

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度なのでフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>藤田真文（2006）『ギフト、再配達:テレビ・テキスト分析入門』せりか書房
藤田真文(共編著：丹羽美之)（2013）『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会
藤田真文編（2016）『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房

藤田真文(2024)『テレビドラマ研究の教科書：ジェンダー・家族・都市』青弓社

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, you will learn the basics of academic writing, reflect on the results of your first year of graduate school, and put into practice the writing of an introduction to your master's thesis.

【Learning Objectives】 Second-year master's students are able to summarize the results of their first-year research and write the introduction to their master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Participation in in-class reports and discussions (50% of the evaluation)

Final report (50% of the evaluation)

SOC600E1 - 1100 (社会学 / Sociology 600)

社会学基礎演習 1

土橋 臣吾

備考（履修条件等）：基礎演習 1、メディア社会学基礎演習 1 と合同 2024年度以前社会学コース入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学研究科における研究プロセスの理解と研究進捗の支援

【到達目標】

社会学研究科に入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマの先行研究となる論文を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的 to 実施し、その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	社会学研究科および演習の進め方に関する説明	授業全体のイントロダクション
第2回	参加者の研究計画に関する報告	各自の研究計画を報告する
第3回	先行研究の収集状況に関する報告	先行研究の収集状況について報告する
第4回	先行研究の検討(1)	主要な先行研究となる論文の輪読
第5回	先行研究の検討(2)	主要な先行研究となる論文の輪読
第6回	先行研究の検討(3)	主要な先行研究となる論文の輪読
第7回	先行研究の検討(4)	主要な先行研究となる論文の輪読
第8回	総合演習の準備	総合演習の報告レジュメの検討
第9回	総合演習の準備	総合演習の報告レジュメの検討
第10回	先行研究の検討(5)	主要な先行研究となる論文の輪読
第11回	先行研究の検討(6)	主要な先行研究となる論文の輪読
第12回	先行研究の検討(7)	主要な先行研究となる論文の輪読
第13回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告
第14回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

受講生の研究テーマに即して、主要な先行研究となる論文を相談の上で選定し、輪読の対象とする。

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習内での報告（70％）、平常点（30％）

【学生の意見等からの気づき】

総合演習の準備により多くの時間を割く形に授業構成を変更しました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、オーディエンス／ユーザー研究

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students understand current trends in media theory and media research.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand how to set research goals and methods as a graduate student in a media course.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Presentations and reports(70%), in-class contribution(30%).

SOC600E1 - 1101 (社会学 / Sociology 600)

社会学基礎演習 2

鈴木 智之

備考（履修条件等）：基礎演習2、メディア社会学基礎演習2と合同 2024年度以前社会学コース入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学コースの修士課程1年生を対象に、修士論文の作成・執筆に向けて、研究主題の明確化とそのための方法選択に標準化して、研究デザインの構築をめざす。あわせて、学術論文作成に必要な文章の書き方を学ぶ。

【到達目標】

それぞれが執筆する修士論文のテーマを明確化し、これを具体的に回答可能な「問い」として定式化する。研究目的に照らして適切な方法と研究対象（素材・データ）を選択し、先行研究の整理を行う。最終的に、修士論文の序章に相当する文章の作成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回1人〜複数名の報告者を決め、受講者の報告に基づき、出席者全員での討議を重ねる。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第2回	論文の主題と方法①	過去の論文に学ぶ①
第3回	論文の主題と方法②	過去の論文に学ぶ②
第4回	論文の主題と方法③	過去の論文に学ぶ③
第5回	論文の主題と方法④	過去の論文に学ぶ④
第6回	修士論文の構想報告①	論文構想の報告と検討①
第7回	修士論文の構想報告②	論文構想の報告と検討②
第8回	修士論文の構想報告③	論文構想の報告と検討③
第9回	修士論文の構想報告④	論文構想の報告と検討④
第10回	修士論文序章の作成①	論文序章の文章化と検討①
第11回	修士論文序章の作成②	論文序章の文章化と検討②
第12回	修士論文序章の作成③	論文序章の文章化と検討③
第13回	修士論文序章の作成④	論文序章の文章化と検討④
第14回	まとめ	レポートの提出と総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容および毎回の議論への参加（60%）、レポート（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
文化社会学、理論社会学
<研究テーマ>
語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students design their research plans for writing a master thesis. Students are expected to make the research question clear and write an introductory chapter.
Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and the quality of the final report (40%).

SOC600E1 - 1102 (社会学 / Sociology 600)

社会学基礎演習3

藤田 真文

備考（履修条件等）：基礎演習3、メディア社会学基礎演習3と合同
2024年度以前社会学コース入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義ではアカデミック・ライティングの基本を学びながら、修士1年目の研究成果を振り返り、修士論文のイントロダクションを執筆するまでを実践していく。

【到達目標】

修士2年生が修士1年目の研究成果をまとめ、修士論文のイントロダクションを書くことができるようになっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「アーギュメントを作る」からテキストの各章を輪読し、受講生自らの論文テーマへの適用することを繰り返していきます。最終的に修士論文のイントロダクションを書くことができるようになっていくかをレポートで確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方	授業の進め方を確認する
第2回	アーギュメントを作る	テキストの輪読
第3回	アーギュメントを作ってみる	受講生の報告
第4回	アカデミックな価値を作る	テキストの輪読
第5回	アカデミックな価値を作ってみる	受講生の報告
第6回	総合演習の準備	受講生の報告
第7回	パラグラフを作る	テキストの輪読
第8回	パラグラフを作ってみる	受講生の報告
第9回	パラグラフを解析する／長いパラグラフを作る	テキストの輪読
第10回	長いパラグラフを作ってみる	受講生の報告
第11回	先行研究の引用	テキストの輪読
第12回	先行研究を引用してみる	受講生の報告
第13回	イントロダクションにすべて書く	テキストの輪読
第14回	イントロダクションを書いてみる	受講生の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

阿部幸大（2024）『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、1,800円

【参考書】

M.アルヴェッソン・J.サンドバーク（2024）『面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスチョンの作り方と育て方【第2版】』佐藤郁哉訳、白桃書房、2,727円

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告とディスカッションへの参加（評価の50％）
最終レポート（評価の50％）

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度なのでフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>藤田真文（2006）『ギフト、再配達:テレビ・テキスト分析入門』せりか書房
藤田真文(共編著：丹羽美之)（2013）『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会
藤田真文編（2016）『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房

藤田真文(2024)『テレビドラマ研究の教科書：ジェンダー・家族・都市』青弓社

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, you will learn the basics of academic writing, reflect on the results of your first year of graduate school, and put into practice the writing of an introduction to your master's thesis.

【Learning Objectives】 Second-year master's students are able to summarize the results of their first-year research and write the introduction to their master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Participation in in-class reports and discussions (50% of the evaluation)

Final report (50% of the evaluation)

SOC600E1 - 2100 (社会学 / Sociology 600)

メディア社会学基礎演習 1

土橋 臣吾

備考（履修条件等）：基礎演習 1、社会学基礎演習 1 と合同 2024 年度以前メディアコース入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学研究科における研究プロセスの理解と研究進捗の支援

【到達目標】

社会学研究科に入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマの先行研究となる論文を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的 to 実施し、その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	社会学研究科および演習の進め方に関する説明	授業全体のイントロダクション
第2回	参加者の研究計画に関する報告	各自の研究計画を報告する
第3回	先行研究の収集状況に関する報告	先行研究の収集状況について報告する
第4回	先行研究の検討(1)	主要な先行研究となる論文の輪読
第5回	先行研究の検討(2)	主要な先行研究となる論文の輪読
第6回	先行研究の検討(3)	主要な先行研究となる論文の輪読
第7回	先行研究の検討(4)	主要な先行研究となる論文の輪読
第8回	総合演習の準備	総合演習の報告レジュメの検討
第9回	総合演習の準備	総合演習の報告レジュメの検討
第10回	先行研究の検討(5)	主要な先行研究となる論文の輪読
第11回	先行研究の検討(6)	主要な先行研究となる論文の輪読
第12回	先行研究の検討(7)	主要な先行研究となる論文の輪読
第13回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告
第14回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

受講生の研究テーマに即して、主要な先行研究となる論文を相談の上で選定し、輪読の対象とする。

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習内での報告（70％）、平常点（30％）

【学生の意見等からの気づき】

総合演習の準備により多くの時間を割く形に授業構成を変更しました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、オーディエンス／ユーザー研究

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students understand current trends in media theory and media research.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand how to set research goals and methods as a graduate student in a media course.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Presentations and reports(70%), in-class contribution(30%).

SOC600E1 - 2101 (社会学 / Sociology 600)

メディア社会学基礎演習 2

鈴木 智之

備考（履修条件等）：基礎演習 2、社会学基礎演習 2 と合同 2024 年度以前メディアコース入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学コースの修士課程 1 年生を対象に、修士論文の作成・執筆に向けて、研究主題の明確化とそのための方法選択に照準化して、研究デザインの構築をめざす。あわせて、学術論文作成に必要な文章の書き方を学ぶ。

【到達目標】

それぞれが執筆する修士論文のテーマを明確化し、これを具体的に回答可能な「問い」として定式化する。研究目的に照らして適切な方法と研究対象（素材・データ）を選択し、先行研究の整理を行う。最終的に、修士論文の序章に相当する文章の作成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回 1 人～複数名の報告者を決め、受講者の報告に基づき、出席者全員での討議を重ねる。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第 2 回	論文の主題と方法①	過去の論文に学ぶ①
第 3 回	論文の主題と方法②	過去の論文に学ぶ②
第 4 回	論文の主題と方法③	過去の論文に学ぶ③
第 5 回	論文の主題と方法④	過去の論文に学ぶ④
第 6 回	修士論文の構想報告①	論文構想の報告と検討①
第 7 回	修士論文の構想報告②	論文構想の報告と検討②
第 8 回	修士論文の構想報告③	論文構想の報告と検討③
第 9 回	修士論文の構想報告④	論文構想の報告と検討④
第 10 回	修士論文序章の作成①	論文序章の文章化と検討①
第 11 回	修士論文序章の作成②	論文序章の文章化と検討②
第 12 回	修士論文序章の作成③	論文序章の文章化と検討③
第 13 回	修士論文序章の作成④	論文序章の文章化と検討④
第 14 回	まとめ	レポートの提出と総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容および毎回の議論への参加（60%）、レポート（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

文化社会学、理論社会学

<研究テーマ>

語りの社会学

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students design their research plans for writing a master thesis. Students are expected to make the research question clear and write an introductory chapter.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and the quality of the final report (40%).

SOC600E1 - 2102 (社会学 / Sociology 600)

メディア社会学基礎演習 3

藤田 真文

備考（履修条件等）：基礎演習 3、社会学基礎演習 3 と合同 2024 年度以前メディアコース入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義ではアカデミック・ライティングの基本を学びながら、修士1年目の研究成果を振り返り、修士論文のイントロダクションを執筆するまでを実践していく。

【到達目標】

修士2年生が修士1年目の研究成果をまとめ、修士論文のイントロダクションを書くことができるようになっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「アーギュメントを作る」からテキストの各章を輪読し、受講生自らの論文テーマへの適用することを繰り返していきます。最終的に修士論文のイントロダクションを書くことができるようになっているかをレポートで確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方	授業の進め方を確認する
第2回	アーギュメントを作る	テキストの輪読
第3回	アーギュメントを作ってみる	受講生の報告
第4回	アカデミックな価値を作る	テキストの輪読
第5回	アカデミックな価値を作ってみる	受講生の報告
第6回	総合演習の準備	受講生の報告
第7回	パラグラフを作る	テキストの輪読
第8回	パラグラフを作ってみる	受講生の報告
第9回	パラグラフを解析する／長いパラグラフを作る	テキストの輪読
第10回	長いパラグラフを作ってみる	受講生の報告
第11回	先行研究の引用	テキストの輪読
第12回	先行研究を引用してみる	受講生の報告
第13回	イントロダクションにすべて書く	テキストの輪読
第14回	イントロダクションを書いてみる	受講生の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

阿部幸大（2024）『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、1,800円

【参考書】

M.アルヴェッソン・J.サンドバーグ（2024）『面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスチョンの作り方と育て方【第2版】』佐藤郁哉訳、白桃書房、2,727円

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告とディスカッションへの参加（評価の50％）
最終レポート（評価の50％）

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度なのでフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>藤田真文（2006）『ギフト、再配達:テレビ・テキスト分析入門』せりか書房
藤田真文(共編著：丹羽美之)（2013）『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会
藤田真文編（2016）『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房

藤田真文(2024)『テレビドラマ研究の教科書：ジェンダー・家族・都市』青弓社

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, you will learn the basics of academic writing, reflect on the results of your first year of graduate school, and put into practice the writing of an introduction to your master's thesis.

【Learning Objectives】 Second-year master's students are able to summarize the results of their first-year research and write the introduction to their master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Participation in in-class reports and discussions (50% of the evaluation)

Final report (50% of the evaluation)

SOC500E1 - 1302 (社会学 / Sociology 500)

統計分析法

胡中 孟徳

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法2」と合同、専門社会調査士科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会統計学の基礎を学びつつ、それを実際に社会調査によって得られたデータに適用する方法を学習する。これにより、社会学的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。社会現象を実際のデータを用いて分析することを通じ、理論的説明と実証分析の対応関係についての実践的な感覚を深める。

【到達目標】

主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と統計ソフト SPSS を用いた実習をおこない、それに対するフィードバックを通じて理解を深める。授業では、「SPSS：リモートデスクトップ」を利用する。利用方法は授業でも解説するが、あらかじめ自分のパソコンに「SPSS：リモートデスクトップ」をインストールしておくことを勧める。詳細は多摩情報センターウェブサイトで「SPSS：リモートデスクトップ」の「利用ガイド」を参照されたい。取り上げる手法は、履修者の理解状況などに応じて調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：社会学と多変量解析	
第2回	代表値と散布度	中心がどのあたりにあるのかと散らばりの程度に関する統計量を復習する
第3回	推測統計の基礎	推測統計の基礎について概説する
第4回	線形代数の基礎	線形代数の基礎知識とデータの関連について説明する
第5回	説明変数・目的変数と二変量重回帰モデル	二変量重回帰モデルの考え方について解説する
第6回	重回帰理論の数学モデル	誤差項と重回帰係数・切片について線形代数を用いて解説する
第7回	重回帰分析の導入	重回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第8回	最小二乗推定と多重共線性	重回帰モデルの推定方法の1つであるOLSと、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第9回	偏重回帰係数の検定とモデルの評価	偏重回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第10回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第11回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第12回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第13回	探索的因子分析と確認的因子分析	探索的因子分析との比較により、確認的因子分析の概略を学ぶ
第14回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

ボーンシュテット&ノーキ、1990、『社会統計学』ハーベスト社。
片瀬一男編、2007、『社会統計学』放送大学教育振興会。
その他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用した授業内報告（40％）とレポート（60％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞教育社会学・生活時間研究
＜研究テーマ＞生活時間と格差

＜主要研究業績＞

中村高康・平沢和司・荒牧草平・中澤渉編『教育と社会階層: ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会（2018年、章分担執筆）。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods through secondary data analysis. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and reports(60%). The goal of this course is to understand the basics of multivariate analysis, mainly through the study of multiple regression and factor analysis. Your study time will be more than four hours for a class.

SOC500E1 - 1304 (社会学 / Sociology 500)

調査研究法

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法1」と合同、専門社会調査士科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の研究において、受講生各自が社会調査を企画・設計し、実施をおこなうために必要な知識と技法を習得する。そのために社会学の優れた調査研究やそれに関連する方法論的な文献を講読し、社会学の各文献の問題関心とそこから導き出されたデータ収集・分析法について学ぶ。さらに、受講者が各自の問題関心に応じた調査の設計やデータ分析の方向性を構想するとともに、受講生同士のディスカッションを通してその具体化と洗練を図る。

【到達目標】

・優れた研究の講読を通して、それらが研究対象の特性と結びつけてどのような調査・分析を行っているか、その思考法を理解することができる。
・それらの理解を活かしつつ、学生が自身の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析の方法を構想し、洗練させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンラインでの演習の形式を採る。授業内での文献に関する受講生の発表、また受講生自身の研究テーマとリサーチデザインについての報告の発表に基づいて授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	総論1	社会学と社会調査
第2回	総論2	社会調査の諸類型
第3回	総論3	社会調査の倫理
第4回	研究計画1	研究テーマに関する先行研究のフローと課題の鮮明化
第5回	研究計画2	既存統計データの加工・分析
第6回	フィールドワークの企画・設計1	調査のテーマ、主旨と目的
第7回	フィールドワークの企画・設計2	調査の範囲、予算とスケジュール
第8回	フィールドワークの企画・設計3	調査研究法の選択
第9回	フィールドワークの実際1	観察調査とインタビュー調査
第10回	フィールドワークの実際2	テキストデータの分析
第11回	フィールドワークの実際3	受講者の研究への応用に関する討論
第12回	社会関係を計量する1	調査の実例から
第13回	社会関係を計量する2	受講者の研究への応用に関する討論
第14回	各自の調査デザインの最終発表と相互討論	受講生各自がそれまでの講義内容を活かして、自分自身の研究テーマに即したりリサーチデザインを報告し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

各回ごとで授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加50%、報告の内容評価50%、十分に準備した報告を行い、修士論文に相応しい調査計画を立案できていること。

【学生の意見等からの気づき】

双方向的なコミュニケーションを重視し、履修者によるディスカッションへの積極的な参加を促す。

【学生が準備すべき機器他】

PCによるアクセスが必須。

【その他の重要事項】

専門社会調査士資格のH科目に該当する。
博士後期課程「社会調査法1」と合同で行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学、産業・労働社会学

<研究テーマ>産業再編成と労使関係、越境的な人の移動

<主要研究業績>『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021年）

【Outline (in English)】

In this course, students will learn how to design surveys and analyze data by linking them to sociological research objectives and social theory. By the end of the course, students will understand the process of data collection and analysis in sociological research by reviewing classics and recent excellent research. In addition, students will develop their own research design and data analysis methods based on their own interests, and refine them through mutual discussion.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class presentation:50%, in class contribution:50%

SOC500E1 - 1305 (社会学 / Sociology 500)

質的資料分析法

堀川 三郎

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法3」と合同、専門社会調査士科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査法の基本的理解と、その実践的力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうるものについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得よう試みる。

【到達目標】

さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送などの質的データの分析法（内容分析等）を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説します。その上で、受講生のデータあるいは各自の関心がある領域の質的資料を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	質的調査とは何か	量的調査との違い／調査倫理の問題
第2回	質的調査法の歴史と到達点1	インタビュー／参与観察／ドキュメント分析／観察
第3回	質的調査法の歴史と到達点2	エスノグラフィー／ライフヒストリー／GTA／会話分析
第4回	実践的課題1（資料を集める）	質問とは何か／ラポールをめぐる論争／調査者の立ち位置
第5回	実践的課題2（資料を分析する）	記録をつくる／テーマをたてる／データの特徴を整理する
第6回	実践的課題3（資料を記述する）	書くとはどういうことか／調査倫理ふたたび
第7回	ワークショップ1	データ・質的資料の持ち寄り
第8回	ワークショップ2	最初の感想とそこから見えるものの
第9回	ワークショップ3	どう記録をつくるのか
第10回	ワークショップ4	テーマをたてる
第11回	ワークショップ5	データの特徴を理解する
第12回	ワークショップ6	改めてテーマをたてる
第13回	ワークショップ7	ふたたびデータの特徴を考える
第14回	総合討論	質的調査法の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

1. 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的社会調査の方法』有斐閣
2. 佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法：理論・方法・実践』新曜社
3. 堀川三郎（2018）『町並み保存運動の論理と帰結』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

討議への参加（40%）、演習課題への取り組み（60%）

【学生の意見等からの気づき】

非該当（N/A）

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、都市社会学

<研究テーマ>歴史的環境保存の社会学、日米比較社会学

<主要研究業績>『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析』（東京大学出版会、2018年）、*Why Place Matters* (Springer, 2021)、『産業遺産の社会史』（共著、青弓社、2025年）など

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge of qualitative research methods.

First, students will understand development processes and current situations of qualitative survey methods including fieldwork such as interviews and participant observation as well as document analysis. Students will study and discuss important points in conducting qualitative research from practical perspectives. Workshops will be conducted based on data presented by students and/or the instructor, through which students will learn how to select and carry out appropriate methods.

Learning Objectives

Students will acquire basic understanding of various qualitative research methods and learn how to analyze qualitative data including newspaper and magazine articles, documents, films, broadcasting and music. Students are expected to achieve capabilities to apply actual analysis methods in some data types.

Learning Activities Outside Class

Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

Participation in discussions (40%) and exercises (60%)

SOC500E1 - 2216 (社会学 / Sociology 500)

メディア研究実習 1

山口 仁

備考（履修条件等）：旧カリ「調査報道実習 1」

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術的なメディア研究（特に報道分析）に向けた実践的演習を行う。受講生は学術的な報道分析の手法を習得し、研究成果（例えば、修士論文、博士論文、学会発表、投稿論文）として完成させることを目的とする。

【到達目標】

実際に報道分析を行っている学術論文や学術書をレビューしながら、その手法を具体的に学んでいく。その上で受講生は具体的事例を自ら設定し、それに関する報道の分析を繰り返し演習として行っていく。そして研究報告や論文執筆が出来るようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習形式を採用する。具体的には学術論文・学術書の輪読・報告、課題の事例分析の発表・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報道分析とは何か	現在のメディア・ジャーナリズム研究において具体的に報道を分析する意義について講義をする。「理論を用いて事例を解釈するのか」、「事例の分析を通じて理論を説明するのか」を分けて考えることの重要性について解説する。
第2回	報道分析に関する先行研究レビュー①（輪読）	報道分析に関する学術論文（学術書）の輪読を行う。ただし、論文の内容そのものではなく、分析手法に注目してレビューを行う。
第3回	報道分析に関する先行研究レビュー②（講義・輪読）	報道分析に関する学術論文（学術書）の輪読を行う。ただし、論文の内容そのものではなく、分析手法に注目してレビューを行う。できれば、「問題ある」報道分析についても明らかにしていきたい。
第4回	事例分析のテーマ報告・ディスカッション①	報道分析を行う事例を設定して報告し、その後議論する。
第5回	事例分析のテーマ報告・ディスカッション②	報道分析を行う事例を設定して報告し、その後議論する。
第6回	各自の分析報告①	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第7回	各自の分析報告②	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第8回	各自の分析報告③	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第9回	先行研究にみられる報道分析の理論枠組みを批判的に検討する①	先行研究における報道分析がどんな理論的枠組みで行われているのかを把握し、そこにどんな問題があるのかを批判的に検討する。理論的枠組みの問題を認識することで事例分析の質を高めることを目標とする。
第10回	先行研究にみられる報道分析の理論枠組みを批判的に検討する②	先行研究における報道分析がどんな理論的枠組みで行われているのかを把握し、そこにどんな問題があるのかを批判的に検討する。理論的枠組みの問題を認識することで事例分析の質を高めることを目標とする。
第11回	担当教員による報道分析の解説（演習）	担当教員が実際に行ってきた、もしくは行っている報道分析について自己反省的に解説する。
第12回	報道分析を研究発表するための実習①	分析を研究報告もしくは論文執筆へとつなげていくための模擬発表、および講評。
第13回	報道分析を研究発表するための実習②	分析を研究報告もしくは論文執筆へとつなげていくための模擬発表、および講評。
第14回	報道分析を研究発表するための実習③、まとめとふりかえり。	半年間の授業を振り返り、自らの研究へと反映させていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題論文・図書の輪読用資料を作成する。報告のための準備をする。講評・コメントを自身の研究に反映する。授業1回あたりの準備時間と復習時間はそれぞれ2時間（計4時間）を基準とする。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書は無い。

【参考書】

山口仁（2018）『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房、4500円（税別）
山腰修三編（2022）『対立と分断の中のメディア政治』慶應義塾大学出版会、3200円（税別）
…担当者が行った報道分析をまとめた著書・編著。

【成績評価の方法と基準】

報告や発表などの平常点（50%）と期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の研究の進捗状況を把握したうえで、実習を行っていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読や分析報告の形式は自由ですが、パワーポイントなどのスライドでも紙媒体のレジュメ形式でも対応できることが望ましいです。

【その他の重要事項】

兼任講師なので特定の時間のオフィスパワーはありません。受講生にはメールアドレスをお伝えしますのでそちらに連絡するようにしてください。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ジャーナリズム論、マス・コミュニケーション論
＜研究テーマ＞ジャーナリズムに関する社会構築主義的研究
＜主要研究業績＞『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実（2018年・勁草書房）』

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire skills in academic news analysis. The goals of this course are to analyze news articles and write a academic report. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

SOC500E1 - 2217 (社会学 / Sociology 500)

メディア研究実習2

水野 剛也

備考（履修条件等）：旧カリ「調査報道実習2」

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な（多くは英語の）文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容についてゼミ形式で大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をする。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を目ざす共同作業を意味する。

【到達目標】

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な（多くは英語の）文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容について大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をする能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な（多くは英語の）文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、かつその内容についてゼミ形式で大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をする。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を目ざす共同作業を意味する。

受講者数によるが、現時点では、全員が同じ文献・学術論文を精読した上で、数名がその主要な内容や所感を発表したのち、全員でディスカッションをする予定である。より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。

受講希望者は、初回にはかならず出席すること。特段の事情がない限り、第2回目以降からの受講は許可しない。ゼミ形式で大学院にふさわしいハイレベルなディスカッションをするため、希望者が多数の場合は、何らかの方法で選抜する。

講義内容や文献・学術論文に関する質問には、基本的にはすべて講義内で答える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction
第2回	"Social Media and Youth Mental Health"	Reading
第3回	Ditto	Discussion
第4回	"Facebook Files"	Reading
第5回	Ditto	Discussion
第6回	"Portrayal Guidelines"	Reading
第7回	Ditto	Discussion
第8回	Mid-term review	Mid-term review
第9回	"Gender Information and Perceived Quality"	Reading
第10回	Ditto	Discussion
第11回	"Predator"	Reading
第12回	Ditto	Discussion
第13回	"Spotlight"	Reading and discussion
第14回	Summing up	Summing up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、広くジャーナリズム、マス・メディアに関する（多くは英語の）文献・学術論文をあらかじめ精読し、全体像を理解した上で、大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）のために所感・疑問などを整理しておくことが必須である。準備学習・復習時間は各2時間を標準とするものの、本格的な（多くは英語の）文献・学術論文を多量に精読するため、一定程度の読解能力が必要で、その場合でも受講者によってはかなりの時間を要する。

【テキスト（教科書）】

適宜、教員が指示・配布する。

【参考書】

適宜、教員が指示・配布するが、ほとんどの場合、受講者自身が参考資料・文献を集める。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、おおまかに、平常点（ディスカッション含む授業参加）＝90％、その他＝10％程度とする。その場限りの単発の試験ではなく、日々の継続的な努力と授業参加を重視する。欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位を与えることはない。積極的な参加が評価を大きく左右する。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、参加者のコメントや意見を取り入れるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomによるオンライン開講であるため、そのために必要な各種機器を準備すること。

【その他の重要事項】

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する（多くは英語の）文献・学術論文を多量に精読するため、この分野に興味・関心のない（薄い）者の受講はすすめない。

また、本講の目的は、（多くは英語の）文献・学術論文を精読し、理解することを最低限とした上で、大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をすることなので、単なる英語読解を超えた能力を要する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞アメリカジャーナリズム史

＜研究テーマ＞日系アメリカ人史

＜主要研究業績＞『「敵国語」ジャーナリズム』（春風社、2011年）など

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to experience the fully graduate-level practice of academic, constructive discussion based on reading of as much quality (mostly English-language) literature on journalism and mass media studies as possible.

SOC500E1 - 2218 (社会学 / Sociology 500)

メディア研究実習3

橋爪 絢子

備考（履修条件等）：旧カリ「取材文章実習」

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア研究のための調査・分析手法の実習を行います。特に人間中心設計のプロセスで用いられる手法について学び、それらの技法の習得を目指します。また、習得した手法を用いて、学術論文として完成させることを目的とします。

【到達目標】

- (1) 様々な調査・分析手法の特徴を理解する
- (2) メディアに関わる人間を理解するためのスキルを習得する
- (3) 特に、メディアのユーザ行動を把握するためのスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、オンラインで演習形式で行います。授業の内容に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

提出された課題やリアクションペーパーなどの内容について、授業のはじめに取り上げてフィードバックを行い、さらに履修者同士でも議論をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明、履修者の問題意識や関心の確認
2	人間中心設計におけるユーザ調査	ユーザ調査の位置づけ、調査の準備のフェーズにおける注意点
3	ユーザ調査で用いる手法1	UXグラフを用いたUX評価
4	ユーザ調査で用いる手法2	経験想起法を用いたUX評価
5	ユーザ調査で用いる手法3	ダイアリー法の記録
6	ユーザ調査の実施1	調査の実施のフェーズにおける注意点
7	ユーザ調査の実施2	RQの作成
8	ユーザ調査の実施3	調査の実施、音声の録音、書き起こしデータの作成
9	結果の分析1	KJ法による分析
10	結果の分析2	SCATによる分析
11	結果の分析3	カスタマー・ジャーニーマップの作製
12	結果の分析4	ペルソナとシナリオの作成
13	まとめ1	要求事項の明確化、分析の講評
14	まとめ2	その後の設計プロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒須正明・橋爪絢子著（2021）「HCDライブラリー第5巻：人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【参考書】

橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。

授業への参加の姿勢や議論への貢献、提出物の提出状況と内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとOffice系ソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint）、学習支援システム、電子メール、Google Classroomなどを使用します。

【担当教員の専門分野等】

HCI（ヒューマン・コンピュータ・インタラクション）、HCD（人間中心設計）、UCD（ユーザ中心設計）、UX（ユーザエクスペリエンス）の評価

【Outline (in English)】

We will learn through hands-on training about research and analysis methods for media studies. In particular, we will cover methods used in the Human-Centered Design (HCD) process and aim to achieve the following three goals:

- (1) To understand the characteristics of various research and analysis methods,
- (2) To acquire skills to understand people involved in media,
- (3) To acquire skills to understand media user behavior.

This class will be conducted online in a seminar format. In order to understand the content of the class, students are expected to spend a total of four hours before and after each class.

The final grade will be evaluated based on the usual performance score (100%), including the attitude of participation in the class, the contribution to the discussion, and the content of the submission.

SOC500E1 - 1200 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学 1 (ベーシックインカム研究)

岡野内 正

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ベーシックインカム研究の基本文献を精読して到達点と課題をつかむ。この授業では、ヴァン・パリスらの著作『ベーシック・インカム』をゼミ形式で精読しながら岡野内『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』と関連づけて議論することで、その理解を深めていく。

【到達目標】

テキストの基本的な内容を理解し、報告、討論を通じて、批判的な読解力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる読書会形式で、担当者を決めてテキストを読み、要約と疑問点、論点を出し合い、議論しつつ解決していきます。授業支援システムの掲示板に、毎回の授業の箇所について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④議論したい論点、を書き込んでいきます。課題などへのフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方についての打ち合わせ。 この授業テーマに関する自由討論による授業に取り組むうえでの問題意識の明確化。
第2回	自由を実現する手段	序章、第1章前半の内容に関する報告と討論。
第3回	自由を実現する手段	第1章後半に関する報告と討論。
第4回	ベーシックインカムとその親戚たち	第2章前半に関する報告と討論
第5回	ベーシックインカムとその親戚たち	第2章後半に関する報告と討論
第6回	ベーシックインカム前史：公的扶助と社会保険	第3章前半に関する報告と討論
第7回	ベーシックインカム前史：公的扶助と社会保険	第3章後半に関する報告と討論
第8回	ベーシックインカムの歴史	第4章前半に関する報告と討論
第9回	ベーシックインカムの歴史	第4章後半に関する報告と討論
第10回	倫理的に正当化可能か？	第5章前半に関する報告と討論
第11回	倫理的に正当化可能か？	第5章後半に関する報告と討論。
第12回	経済的に持続可能か？	第6章前半に関する報告と討論
第13回	経済的に持続可能か？	第6章後半に関する報告と討論。
第14回	政治的に実現可能か？	第7章に関する報告と討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業支援システムの掲示板に、毎回の授業についての書き込みをする必要があります。

【テキスト (教科書)】

フィリップ・ヴァン・パリス、ヤニック・ヴァンデルボルト著 竹中平蔵監訳『ベーシック・インカム』株式会社クロスメディア・パブリッシング、2022年、2800円。

【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程——批判開発学/SDGsとの対話』法律文化社、2021年、3300円。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加と、毎回の授業についての書き込みの4つの論点について、25点ずつ合計100点で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板を用いて、公開で議論を進めるやり方が役に立ったという意見に基づいて、引き続き進めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会理論、国際政治経済学

<研究テーマ> グローバル・ベーシック・インカム研究

<主要研究業績> 岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』(法律文化社、2021年)、岡野内他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』(明石書店、2016年) など。

【Outline (in English)】

A seminar class for students who wish to understand the basic theory of Universal Basic Income. In this advanced class, "Basic Income"(by Van Parijs et al., Havard Univ. Press, 2017) will be read and discussed with attention to T.Okanouchi's "Perspectives to Global Basic Income Scheme"(Houritsu Bunka-Sha: Kyoto, 2021).

SOC500E1 - 1201 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学2（現代の批判的社会理論）

鈴木 宗徳

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀に出版された社会科学の名著を講読し、その理論的な射程について考察する。

【到達目標】

現代の社会科学における新たな問題提起を理解し、考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストを一冊選んで講読し、履修者によるレジюме報告をもとに討論する。テキストは「テキスト（教科書）」欄に示した5冊の候補から、初回の授業で相談の上で決めるので、事前に図書館で内容を確認しておくこと。授業開始前に学習支援システム上に会議室か何かを設置し、どれを読みたいか（実名で）意見交換できるようにする予定。

また、テキスト講読の合間に履修者は1回ずつ研究報告をしてもらう。受講者の質問やレジюме報告には、迅速にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとテキスト選定	現代の社会理論について
第2回	テキストの講読と討論（1）	報告者のレジюмеによる
第3回	テキストの講読と討論（2）	報告者のレジюмеによる
第4回	テキストの講読と討論（3）	報告者のレジюмеによる
第5回	テキストの講読と討論（4）	報告者のレジюмеによる
第6回	テキストの講読と討論（5）	報告者のレジюмеによる
第7回	テキストの講読と討論（6）	報告者のレジюмеによる
第8回	テキストの講読と討論（7）	報告者のレジюмеによる
第9回	テキストの講読と討論（8）	報告者のレジюмеによる
第10回	テキストの講読と討論（9）	報告者のレジюмеによる
第11回	テキストの講読と討論（10）	報告者のレジюмеによる
第12回	テキストの講読と討論（11）	報告者のレジюмеによる
第13回	テキストの講読と討論（12）	報告者のレジюмеによる
第14回	総括討論	授業全体をふり返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、テキストを丁寧に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

テキスト候補は以下の5冊

- (1) バトリシア・ヒル・コリンズ『インターセクショナリティの批判的社会理論』勁草書房、4,950円（原著2019年）
- (2) トマ・ピケティ『資本とイデオロギー』みすず書房、6,930円（原著2019年）
- (3) イブラム・X・ケンディ『人種差別主義者たちの思考法——黒人差別の正当化とアメリカの400年』光文社、5,500円（原著2016年）
- (4) ジョアン・C・トロント『ケアリング・デモクラシー——市場、平等、正義』勁草書房、3,740円（原著2013年）
- (5) シルヴィア・フェデリーチ『キャリバンと魔女——資本主義に抗する女性の身体』以文社、5,060円（原著2004年）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業中に課するレジюмеの内容を中心に（90％）、参加の度合いや貢献度を加味して（10％）判断する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

学期が始まる前に、学習支援システムのお知らせを早めに確認しておくこと。質問は担当者にメールで連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学理論

<研究テーマ>現代における批判的社会理論の課題

<主要研究業績>

『危機に對峙する思考』（共編著、梓出版社、2016）

『個人化するリスクと社会——ベック理論と現代日本』（編著、勁草書房、2015）

『〈私〉をひらく社会学——若者のための社会学入門』（共著、大月書店、2014）

『リスク化する日本社会——ウルリッヒ・ベックとの対話』（共編、岩波書店、2011）

【Outline (in English)】

Students will read the best social science books published in the 21st century and discuss the range of their theoretical significance. Discussion will be based on the resumes provided by the students. Textbooks will be selected from the following five books by consultation in the first class, so please check the contents in the library in advance.

SOC500E1 - 2200 (社会学 / Sociology 500)

メディア理論1 (ジャーナリズム研究)

別府 三奈子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャーナリズムを規定しているプロフェッション論と言論の自由の概念について、さまざまな国の具体的な事例を観察する。

【到達目標】

民主社会におけるジャーナリズムの存在意義を、昨今の具体的な調査報道の事例とメディア理論の観点から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で行う。テーマ概説、資料の共有、履修生のリサーチとレジュメ発表、ディスカッションを、サイクルで重ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ジャーナリズム・プロフェッション論の視座
第2回	テキスト解題	ジャーナリズムの定義、ジャーナリストの条件
第3回	社会問題の可視化	# me too運動とシーセッド前半
第4回	ジャーナリズムと人権	# me too運動とシーセッド後半
第5回	調査報道の原点	アリゾナケース（怒りを共有するという事）
第6回	国際調査報道の事例	ユーチューブ局 the I File ケース（メキシコ国境難民調査報道）
第7回	中間レポート	社会改良主義とジャーナリズム
第8回	国家機密と知る権利	ペンタゴン・ペーパーズ前半
第9回	内部告発と公益	ペンタゴン・ペーパーズ後半
第10回	言論の自由をめぐる攻防	スノーデンケース前半
第11回	民主社会と情報自由法	スノーデンケース後半
第12回	記者はなぜ紛争地に行くのか	光州事件・前半
第13回	市民はなぜ記者を守るのか	光州事件・後半
第14回	市民社会とジャーナリズム	レジュメ発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の予習・復習、授業で扱う事例の事前視聴とリプライに毎週、2時間くらいを要する。

【テキスト（教科書）】

『映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道のしくみ』別府三奈子ほか編著、勁草書房、2023年

【参考書】

『調査報道ジャーナリズムの挑戦 ―市民社会と国際支援戦略』花田達郎、別府三奈子、大塚一美、デビッド・カプラン著、旬報社、2017年

【成績評価の方法と基準】

授業内での討議内容 50%、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

政治制度とジャーナリズムの関係について自覚を促す。

【学生が準備すべき機器他】

指定テキストの購入、日々のニュース観察

【その他の重要事項】

指定テキストを用いての、予習・復習、および、テーマに沿った各自のリサーチが必須です。ジャーナリズムに関する専門基礎知識があることを前提に授業を行います。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞米国ジャーナリズム思想史

＜主要単著＞『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006年。『アジアでどんな戦争があったのか 戦跡を辿る旅』めこん、2006年。

【Outline (in English)】

We observe the concepts of profession theory and freedom of speech, which govern journalism, through the cases of in east and west.

SOC500E1 - 2201 (社会学 / Sociology 500)

メディア理論2 (記憶と歴史の社会学)

小林 直毅

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近現代史上の重要な出来事の実験とその記録と記憶をめぐる身体・技術的、制度的な変容を、さまざまなメディアの歴史と思想として考察する。

【到達目標】

当面する諸現象、諸課題を、仮構的な「メディアの世界」だけに内向きに狭く閉じ込めて自己完結する「メディア研究」から脱却して、「人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディア」の歴史と思想を問直すメディア研究の可能性と課題を考察できるようになることが、この授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

テッサ・モリス＝スズキ『過去は死なない——メディア・記憶・歴史』をテキストとして、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、報告とディスカッションを重ねていく。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第2回	この授業の問題構成	参加者の研究テーマに即した分担報告の決定。
第3回	過去は死なない (1)	テキストの第1章前半の分担報告。
第4回	過去は死なない (2)	テキストの第1章後半の分担報告。
第5回	想像しがたい過去 (1)	テキストの第2章前半の「歴史小説」をめぐる考察を分担報告。
第6回	想像しがたい過去 (2)	テキストの第2章後半の「歴史小説」をめぐる考察を分担報告。
第7回	レンズに映る影 (1)	テキストの第3章前半の「写真と記憶」をめぐる考察を分担報告。
第8回	レンズに映る影 (2)	テキストの第3章後半の「写真と記憶」をめぐる考察を分担報告。
第9回	活動写真 (1)	テキストの第4章前半の「歴史の映画化」をめぐる考察を分担報告。
第10回	活動写真 (2)	テキストの第4章後半の「歴史の映画化」をめぐる考察を分担報告。
第11回	視角 (1)	テキストの第5章前半の「漫画の歴史表象」をめぐる考察の分担報告。
第12回	視角 (2)	テキストの第5章後半の「漫画の歴史表象」をめぐる考察の分担報告。
第13回	ランダム・アクセス・メモリー	テキストの第6章の「多メディア時代の歴史」をめぐる考察の分担報告。
第14回	"歴史への真摯さ"の政治経済学に向かって	テキスト第7章の分担報告と総括討論。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この授業の事前、事後の学習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テッサ・モリス＝スズキ (田代泰子訳)『過去は死なない——メディア・記憶・歴史——』岩波現代文庫、2014年。

【参考書】

「参考文献リスト」を配布する。

【成績評価の方法と基準】

分担報告と討論における達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』(世界思想社、2003年)

『テレビはどう見られてきたのか』(共編著、せりか書房、2003年)

『水俣学研究序説』(共著、藤原書店、2004年)

『水俣学講義【第2集】』(共著、日本評論社、2005年)

『テレビニュースの社会学』(共著、世界思想社、2006年)

『「水俣」の言説と表象』(編著、藤原書店、2007年)

『テレビジョン解体』(共著、慶應義塾大学出版会、2007年)

『ポピュラーTV』(共著、風塵社、2009年)

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育

への活用—』(共著、日外アソシエーツ、2012年)

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』(共著、ナカニシヤ出版、2013年)

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』(共著、世界思想社、2014年)

『原発震災のテレビアーカイブ』(編著、法政大学出版局、2018年)

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will be able to consider the technical and institutional transformation of the body over the experience of important events in human history and their records and memories as the history and thought of the media.

Learning objectives:

The goal of this course is to break away from "media studies" that are narrowly confined inward and self-contained, and to re-examine the history and ideas of "media as a technology and institution that enables human recognition and existence."

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Sharing report: 50%. Participation in discussion: 50%.

SOC500E1 - 1300 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学基礎 1

徳安 彰

備考（履修条件等）：学部「社会学史Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに19世紀から20世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
①主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解し、自分の文章で論述できるようになる。
②「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、諸理論の意義を自分の文章で説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。毎回の授業のリアクションを提出してもらい、疑問点を中心に各人および全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19世紀から20世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	コント	三段階の法則、実証主義
4	マルクス（1）	史的唯物論、階級構造と階級闘争
5	マルクス（2）	疎外、使用価値と交換価値
6	スペンサー	社会進化論、軍事型社会と産業型社会
7	テンニース	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト
8	ヴェーバー（1）	合理化、合理性の諸類型、資本主義の精神、鉄の檻
9	ヴェーバー（2）	支配の諸類型、官僚制
10	デュルケム（1）	分業、機械的連帯と有機的連帯
11	デュルケム（2）	自殺の諸類型、近代社会と自殺
12	ジンメル（1）	社会化の形式、社会圏
13	ジンメル（2）	支配と従属の諸類型
14	古典社会学の問題意識の総括	各回で扱った社会学者の理論を関連づけて総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未来社
ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣
奥村隆『社会学の歴史Ⅰ・Ⅱ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

評価の要件は、期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）とする。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。学期を通した学修成果の評価という点で、到達目標①②に対応する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。各回の内容理解という点で、到達目標①に対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。またリアクション・ペーパーでの、積極的な質問やコメントを歓迎する。リアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの個別のリプライや掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
社会システム理論
＜研究テーマ＞
グローバル時代の社会システム
＜主要研究業績＞
法政大学学術情報データベースを参照してください。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the classic modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC500E1 - 1301 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学基礎2

徳安 彰

備考（履修条件等）：学部「社会学史Ⅱ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに20世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
①主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解し、自分の文章で論述できるようになる。
②「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、諸理論の意義を自分の文章で説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は対面方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。毎回の授業のリアクションを提出してもらい、疑問点を中心に各人および全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	シンボリック相互作用論、一般化された他者、Iとme
4	シュッツ	現象学的社会学、日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、背後期待、違背実験
6	ゴッフマン	ドラマトゥルギー、印象操作、役割距離
7	パーソンズ	行為理論、社会的機能、社会進化
8	ルーマン	システム理論、オートポイエーシス、社会分化
9	ハーバーマス	コミュニケーション的行為、公共性、生活世界
10	フーコー	規律化、主体、生権力
11	ブルデュー	文化資本、再生産、卓越性
12	ウォラーステイン	世界システム、中心と周辺
13	ギデンズ／バック	第二の近代、再帰性、リスク社会、個人化
14	後期近代の社会学の問題意識の総括	各回で扱った社会学者の理論を関連づけて総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣
奥村隆『社会学の歴史Ⅰ・Ⅱ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

評価の要件は、期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）とする。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。学期を通した学修成果の評価という点で、到達目標①②に対応する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。各回の内容理解という点で、到達目標①に対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの個別のリプライや掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
社会システム理論
<研究テーマ>
グローバル時代の社会システム
<主要研究業績>
法政大学学術情報データベースを参照してください。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the late modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC500E1 - 1205 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究 1 (支援とケアの社会学)

三井 さよ

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

具体的には、ケアや支援を、より広い社会的文脈の中で捉え返すと同時に、個人々の臨床的な視点にも立つためには、どのような態度がありうるかを学ぶ。それを通して、個人的な事柄と社会的な文脈とを結びつける社会的な思考法を深めることを目的とする。

【到達目標】

「個人的なこと」とされがちな事柄を、「社会的なこと」として位置づけることの意義と意味について学ぶ。同時に、「社会的なこと」として切り取ってしまうことの暴力性と限界についても学ぶ。さらにはそれを、自身の社会的な考察に活かせるようになることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業では、ケアや支援の現場で生じるさまざまな課題について、より広い社会的文脈との接点を見つめながら位置づけなおす方法を考える。主に文献講読と、受講者による自由報告を行う。その際、自由なディスカッションを重視する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	ケアや支援と社会的文脈	教員による解説
3	自由報告①	各自の問題関心に応じて報告①
4	自由報告②	各自の問題関心に応じて報告②
5	自由報告③	各自の問題関心に応じて報告③
6	文献講読①	ケアと暴力①
7	文献講読②	ケアと暴力②
8	文献講読③	ケアと安全①
9	文献講読④	ケアと安全②
10	文献講読⑤	安全と暴力①
11	文献講読⑥	安全と暴力②
12	自由報告④	各自の問題関心に応じて報告④
13	自由報告⑤	各自の問題関心に応じて報告⑤
14	総合討論	授業内容を踏まえた総合討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定文献を講読する。また、各自の研究内容への応用についてともに考えるため、各自の研究内容についての報告も求める。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

三井さよ 2023『知的障害・自閉の人たちと「かわり」の社会学』生活書院

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容(50%)、議論への積極的貢献(50%)などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

臨床社会学

【担当教員の研究テーマ】

支援・ケアについての相互行為論的分析

【担当教員の主要業績】

2004『ケアの社会学：臨床現場との対話』勁草書房

2010『看護とケア：心揺り動かされる仕事とは』角川学芸出版

2018『はじめてのケア論』有斐閣

2020『支援のついで』生活書院 (児玉雄大との共編著)

2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

2023『はじめての社会調査』世界思想社 (三谷はるよ・西川知亨・工藤保則と共編著)

2023『知的障害・自閉の人たちと「かわり」の社会学』生活書院

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the way of sociological thinking through understanding the social contexts around caring and supporting. Students will be expected to have the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Short reports(50%), in class contribution(50%).

SOC500E1 - 1206 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究2 (文化社会学)

佐幸 信介

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「風景」と近代に関する基本文献の講読をふまえ、柳田国男の風景論および方法論について、社会学的な再検討を行う。1920年代から1930年代にかけて柳田国男は、風景論に関してまとまった論考を残している。この時期は、近代的国民国家の文化的な統合が、交通やメディアなどのテクノロジーと関連しながら進行していた。そのひとつの位相が「景觀」であった。しかし、柳田の「風景」はこうした景觀とは異なる眼によってとらえられている。この違いを手掛かりに、近代の社会変容についての方法論を検討する。

【到達目標】

近代および現代についての社会変容を、具体的な対象からアプローチするための理論的枠組みや方法論についての理解を深め、受講生自らの研究へと生かしていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

文献購読と受講生の研究報告、ディスカッションによって進める。文献購読と要旨報告の分担については、初回のイントロダクション講義で相談する。各講義での報告についてのレスポンスやフィードバックは講義内に行う。基本文献については、シラバスの各回に示しているが、適宜、関連文献を紹介する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方や評価方法についての説明。文献要旨報告分担の決定
第2回	風景の概論的な文献講読	清水真木『新・風景論』第1章・第2章
第3回	風景の歴史的言説の概論の講読	清水真木『新・風景論』第3章・第4章
第4回	ジンメル「風景」と関連文献についての講読	ゲオルク・ジンメル「風景の哲学」「废墟」
第5回	観光とモビリティに関する文献講読	ジョン・アーリー『観光のまなざし』第1章・第2章・第3章
第6回	観光とまなざしの形成に関する文献講読	ジョン・アーリー『観光のまなざし』第4章・第5章
第7回	風景とメディア、建築についての文献講読	ジョン・アーリー『観光のまなざし』第6章・第7章
第8回	柳田国男の風景に関する基本文献の講読	柳田国男「風景の成長」
第9回	柳田国男の風景と観察に関する文献の講読	柳田国男『明治大正史 世相編』第1章・第4章
第10回	柳田国男の風景と故郷、交通に関する文献の講読	柳田国男『明治大正史 世相編』第5章・第6章
第11回	柳田国男の口承論に関する文献の講読	柳田国男『口承文芸史考』
第12回	柳田国男の民謡論に関する文献の講読	柳田国男「民謡覚書」「民謡の今と昔」
第13回	受講生による研究報告	受講生自らの研究概要の報告とディスカッション
第14回	まとめ	講義全体の総括的なまとめをおこなう

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に定めない

【参考書】

シラバスの各回に提示

その他の文献については、講義内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

文献要旨の報告 (40%)、毎回のディスカッションへの参加度 (30%)、受講生の研究報告 (30%)、

【学生の意見等からの気づき】

本年度開講科目のため、アンケートは実施していません

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

文化社会学、メディア論、地域社会論、建築社会論

【Outline (in English)】

Based on the basic literature on “landscape” and modernity, we will conduct a sociological reexamination of Kunio Yanagida’s landscape theory and methodology. From the 1920s to the 1930s, Yanagida produced some writings on landscape. During this period, the cultural integration of modern nation-states was progressing in correlation with technologies such as transportation and media. “Landscape” was one aspect of this integration. Yanagida’s “landscape,” however, is perceived from a different perspective from this type of landscape. Using this difference as a clue, we will examine the methodology of modern social transformation.

At the end of the course, students are expected to analyze modernity through these methods.

Final grade will be calculated according to the following process: Literature summary report (40%), in-class contribution (30%), and research report (30%)

SOC500E1 - 1209 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究 5

鷹田 佳典

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会学研究 2」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「死にゆくこと・死・死別の社会学」をテーマに、死をめぐる諸現象の検討を通して、現代社会の特徴を理解するとともに、関連する社会学理論について学ぶ。

【到達目標】

- ・死をめぐる現代の状況について説明することができる。
- ・死にゆくこと、死、死別を対象とする社会学的議論を理解することができる。
- ・死に関する社会学的議論を自身の研究に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義、文献購読、個人発表を組み合わせで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要についての説明
第2回	講義	死にゆくこと・死・死別の社会学についての講義
第3回	文献購読	課題図書第2章についてディスカッションを行う。
第4回	文献購読	課題図書第3章についてディスカッションを行う。
第5回	文献購読	課題図書第4章についてディスカッションを行う。
第6回	文献購読	課題図書第5章についてディスカッションを行う。
第7回	文献購読	課題図書第6章についてディスカッションを行う。
第8回	文献購読	課題図書第7章についてディスカッションを行う。
第9回	文献購読	課題図書第8章についてディスカッションを行う。
第10回	文献購読	課題図書第9章についてディスカッションを行う。
第11回	個人発表	受講者がそれぞれの研究テーマについて発表する。
第12回	個人発表	受講者がそれぞれの研究テーマについて発表する。
第13回	個人発表	受講者がそれぞれの研究テーマについて発表する。
第14回	個人発表	受講者がそれぞれの研究テーマについて発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Walter, T. (2017) What Death Means Now: Thinking Critically about Dying and Grieving. Policy Press. (=2020 堀江宗正訳『いま死の意味とは』岩波書店)

【参考書】

澤井敦（2005）『死と死別の社会学－社会理論からの接近－』青弓社
澤井敦・有末賢編（2015）『死別の社会学』青弓社
Seale, C. (1998) Constructing death: the sociology of dying and bereavement. Cambridge University Press.
副田義也編（2001）『死の社会学』岩波書店
Walter, T. (1999) On Bereavement. Buckingham: Open University Press.

【成績評価の方法と基準】

文献報告（35%）、毎回のディスカッションへの参加（30%）、個人の研究報告（35%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

医療社会学

＜研究テーマ＞

患者の死をめぐる医療者の経験、悲嘆理論、ナラティブ・セオリー、コミュニティ・ケア

＜主要研究業績＞

鷹田佳典（2015）「イギリスにおける死別の社会学の展開－T・Walterの議論を中心に」澤井敦・有末賢編『死別の社会学』青弓社: 27-53.
鷹田佳典（2020）「現代社会における悲嘆の個人化－「悲嘆の共同化」に向けての一試論－」『現代宗教2020』32: 83-109.
鷹田佳典（2021）「誰が医療者を癒すのか－コロナ禍で浮き彫りになった医療者のsufferingに着目して」『現代思想』49(2): 131-144.
鷹田佳典（2023）「部屋の中の象？－看取りの場における医療者の悲嘆」『治療』105(12): 1510-1513.

【Outline (in English)】

In this class, we will examine various phenomena surrounding death, with the theme of “the sociology of dying, death, and bereavement”, in order to understand the characteristics of modern society and learn about related sociological theories.

Grading will be decided based on literature report (35%), participation in each discussion (30%), individual research report (35%).

SOC500E1 - 1210 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究 6

坂上 香

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会学研究 3」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、犯罪への対応策を通して、犯罪と社会の関係性について考えていく。まず、メディアによって被害者と加害者のイメージがいかに作られてきたかを見ていく。次に、暴力(被害と加害)の連鎖の問題と、そこからの離脱(脱暴力)のアプローチを扱う。そして、刑事政策が従来の「罪と罰」の発想から「回復と成長」モデルへとシフトしている世界の潮流を鑑みながら、いくつかの具体例を紹介する。授業で主に扱うのは、被害者遺族による死刑廃止運動、回復共同体、修復的アプローチ、矯正施設における協働的アート、アポリシオンムーブメント、北欧モデルなど。講師が監督した映像を交え、現代における犯罪（および暴力一般）への眼差しや対応の変化を探っていくと同時に、調査方法としての映像についても学ぶ。

【到達目標】

- ・加害者や被害者のイメージの作られ方を理解する。
- ・暴力の連鎖の仕組みを学び、脱暴力のアプローチを学ぶ。
- ・新たな犯罪政策の実例に触れ、それぞれの発想や特徴を学ぶ。
- ・犯罪と社会の関係性について考察していく。
- ・質的調査法としての映像についても考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業で扱うテーマに関する映像やテキストを使い、講義、ディスカッション形式で進めていく。クリエイティブワークも一部取り入れる予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス&日本の刑務所と刑罰文化	自己紹介、授業の進め方、受講生の研究テーマや関心、日本の刑務所の現状、体感治安など
第2回	犯罪のイメージは作られる	映像分析という手法を使った編集のトリック&マジック
第3回	死刑とメディア①	映像1視聴——被害者による死刑廃止運動
第4回	死刑とメディア②	死刑制度を支えるイメージと被害者像、絶対的他者化
第5回	死刑とメディア③	死刑をめぐるエクササイズ&ディスカッション
第6回	加害者と更生をめぐる①	映像2視聴——回復共同体
第7回	加害者と更生をめぐる②	回復共同体 & ディスカッション
第8回	被害者と加害者とコミュニティ①	映像3——修復的司法
第9回	被害者と加害者とコミュニティ②	修復的アプローチ & ディスカッション
第10回	被害者と加害者とコミュニティ③	エモーショナル・リテラシーを使ったワーク & ディスカッション
第11回	現代の奴隷制としての刑務所と刑罰	米国の刑務所産業複合体とアポリシオン・ムーブメント
第12回	加害と被害と表現①	映像4——演劇と刑務所
第13回	加害と被害と表現②	ディスカッション
第14回	新しい潮流	刑務所とアート(協働的表現活動) 北欧モデル & ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用するテキストについては、学習支援システムを通して、もしくは授業で配布する。初日はあらかじめ見ておいて欲しい映像があるので、学習支援システムを通して、リンクを送る。

【参考書】

アーヴィング・ゴフマン、石黒毅訳 2001『スティグマの社会学 改訂版: 烙印を押されたアイデンティティ』セリカ書房
坂上香, 2024,『ジャーニー・オブ・ホープ 被害者遺族と死刑囚家族の回復への旅』岩波書店
坂上香,2022,『プリズン・サークル』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション（30％）、コメントシート（20％）、レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する可能性あり。初回に説明。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞犯罪と社会 ドキュメンタリー・スタディーズ

＜研究テーマ＞

脱暴力のアプローチ ポピュラーカルチャーにおける加害・被害の表象

＜主要研究業績＞

坂上香, 2024,『ジャーニー・オブ・ホープ 被害者遺族と死刑囚家族の回復への旅』岩波書店.

坂上香, 2024,「重罪を犯した人にこそ更生の機会をーカリフォルニア州の終身刑と仮釈放者の声」『こころの科学』, (239)80～85, 日本評論社.

坂上香,2022,『プリズン・サークル』岩波書店.

坂上香,2020,「警察や刑務所は、私たちの安全を守るか?: COVID-19パンデミック×BLM時代におけるアンジェラ・デイヴィスの問い」,『現代思想』, 48 (13), 97-106, 青土社.

【Outline (in English)】

This course will cover the relationship between crime and society through crime policy. First, it looks at how images of victims and perpetrators have been created by the media. It then deals with the issue of the cycle of violence (victimisation and perpetration) and approaches to disengaging from it. Some specific examples will then be presented in light of the global trend in which crime policy is shifting from the traditional ‘crime and punishment’ concept to a ‘recovery and growth’ model. The main topics covered in the course include the anti-death penalty movement by victims’ families, therapeutic communities, restorative approaches, collaborative art in correctional institutions, the Abolition Movement and the Nordic model. The course will explore changes in contemporary perspectives on and responses to crime (and violence in general), with documentaries directed by the lecturer, as well as learning about film production as a research method. Grading Criteria/Policy Discussion (30 %), Daily Comments (20%), Report (50%)

SOC500E1 - 2205 (社会学 / Sociology 500)

メディア特殊研究 1 (知的財産権法)

白田 秀彰

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

知的財産権法の入門講義である。
情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的かつ適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

この講義はオンラインで行う。受講生はZoomを用いて講義に参加できるようネットワーク環境を整える必要がある。講義に関する連絡その他は、指定されたGoogle Classroomにて行う。提出された課題に対する講評は、Google Classroomのストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

Google Classroomのクラスコードは6zsqx7である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。
13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に指定された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う(100%)。すなわち、各小論文を10段階評価し、期末にその小論文への評価を合算する。続いて最高得点をとった学生の素点を100点と換算し、以下全員の素点を換算する。

指示がない限り人工知能等により生成した文章を用いてはならない。生成文を使用した答案については0点として処理する。

また、論文試験や小論文等において剽窃(コピペ)を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関する連絡は、すべてGoogle Classroom上で行う。

受講生は、下記のURLに必ず登録しておく必要がある。

<https://classroom.google.com/c/Njg3OTU2NDA4NDcw?cjc=6zsqx7>

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/103/0010211/profile.html>

【Outline (in English)】

This is an introductory lecture on intellectual property law.

First, we will overview all areas of intellectual property law, such as patents, trademarks, designs, and copyrights, to understand their respective roles, and then specifically examine copyright law, which is the most familiar and important for liberal arts students.

SOC500E1 - 2206 (社会学 / Sociology 500)

メディア特殊研究2 (ブランド広告の意味研究)

青木 貞茂

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会においてブランドは、私達が生きていく上で無視できないほど大きな意味・価値を持った存在である。このブランドを創造するのが広告情報であり、どのように私達に働きかけ、影響を与えるのか、意味・価値の生成構造について構造主義、記号論、語用論をふまえ明らかにする。

【到達目標】

現代のブランド広告などに関して構造主義・記号論などの方法を駆使して、その構造・意味を分析・把握することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

主にブランド広告あるいは関連情報を中心として、記号論、言語学における語用論等の方法を駆使し、様々な情報を分析素材として構造・意味解析を実行する。その隠された意味、表現構造を明らかにし、ともに情報の意味についての考察を深めていく。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全必要な予備知識などについて説明
第2回	現代社会におけるブランド、広告、文化	ブランド、広告、文化は、現代社会の中でどのような機能と役割を果たしているのか
第3回	ブランドの存在論	現代社会におけるブランドの存在意義
第4回	ブランド価値の発見	ブランドの価値、意味内容のための調査方法
第5回	ブランド価値の構造化	ブランドの価値、意味内容を定義する
第6回	ブランド価値の管理	ブランドの価値をぶれずに管理する手法
第7回	ブランド・シンボルの概念	ブランドの表現を構成するシンボルの内容
第8回	ブランドにおけるシンボル・チェーン	ブランドのシンボル間のチェーン構造とはどのようなものか
第9回	成功したブランド広告のケース分析	世界的に成功したブランド広告の事例を分析
第10回	ブランド広告の構造分析	ブランド広告を構造主義、記号論の方法で分析
第11回	言語ゲームとブランド・コミュニケーション	言語ゲーム論からみたコミュニケーション戦略
第12回	ブランド広告と物語	ブランド広告を効果的に拡散する物語
第13回	ブランドマネジメントの方法	ブランド表現、シンボルのマネジメント方法
第14回	ブランド広告と情報戦略	ブランドに関する情報発信戦略の概要と授業全体でのまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常生活においてブランドとその広告表現について積極的な関心を持ち、情報収集を行なう。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本講義では、準備時間2時間、復習時間2時間、1回につき計4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

青木貞茂『文化の力』(NTT出版、2008年)

【参考書】

津金澤聡廣・佐藤卓己編『広報・広告・プロパガンダ』(ミネルヴァ書房、2003年)
佐藤卓己・渡辺靖・柴田康文編『ソフト・パワーのメディア文化政策』(新曜社、2012年)
他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、課題レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

理論についての理解を深めるため、より詳細な説明を行なうことを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、月曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞広告論、ブランド論

＜研究テーマ＞文化と広告、ブランド、マーケティング

＜研究業績＞単著『文脈創造のマーケティング』(日本経済新聞社、1994年)、『文化の力』(NTT出版、2008年)

共著『記号化社会の消費』(ホルト・サウンダース・ジャパン、1985年)、『広告の記号論』(日経広告研究所、1987年)、『文化の消費が始まった』(日本経済新聞社、1989年)、『広報・広告・プロパガンダ』(ミネルヴァ書房、2003年)、『ソフト・パワーのメディア文化政策』(新曜社、2012年)

共訳書としてレイモア『隠された神話』(日経広告研究所、1985年)

【Outline (in English)】

In contemporary society, brand is an existence with great significance and value that cannot be ignored in our everyday life. We will clarify how the brands, created by advertisement information, influence us and how their significance and values are produced in light of structuralism, semiotics, and pragmatics.

In today's society, brands are entities of such great significance and value that they cannot be ignored in our daily lives. Using methods such as structuralism and semiotics, the aim of this course is to be able to analyze and understand the structure and meaning of advertising information, what creates a brand, and how it works and influences us. Students will take an active interest in, and gather information about, brands and their advertising communication in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard duration of this course is two hours of preparation and two hours of review, for a total of four hours per session. Evaluation is based on ordinary points (70%) and assignment reports (30%).

SOC500E1 - 0300 (社会学 / Sociology 500)

学際研究 1 (若年移行期と Youth Work)

平塚 眞樹

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本に限らず先進諸国では20世紀末以降、社会構造の変容に伴い、若年世代の不安定化、流動化が進行し、社会問題化した。この授業の前半では、同時期に刊行された国内外の関連文献を通して、若年移行期の構造変容に関する理解、並びにその課題にアプローチする多様なアプローチについて学ぶ。授業後半では、若年移行期支援の一つとしてユースワーク (Youth Work) に着目し、若年移行期の人間形成におけるその意味について考える。

【到達目標】

「若者移行期」の構造変容、並びにそれがもたらす社会課題に取り組む多様なアプローチを理解、考察し、中でも「ユースワーク (Youth Work)」がこの時期の人間形成上に有する位置づけや意義を理解し考察すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行う。前半では若年移行期の構造変容、並びにそれがもたらす課題への多様なアプローチを論じた関連文献を提示し、受講生各々の関心に応じて選択、報告、討議する。後半では特に「ユースワーク (Youth Work)」に着目して、日本と欧州各国におけるその展開を論じた文献を提示し、やはり受講生の関心に応じて選択、報告、討議する。関心ある受講生を対象に実践現場訪問も企画する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、進行などについて説明する。
第2回	テキストの紹介	前半に報告、討論する関連文献について紹介し、報告者を相談する
第3回	研究関心の共有	受講生並びに授業者の研究関心を交流し、共有する。
第4回	関連文献の報告、討議①	若年移行期の構造変容とそれがもたらす社会課題への多様なアプローチを論じた関連文献を報告し、討議する
第5回	関連文献の報告、討議②	若年移行期の構造変容とそれがもたらす社会課題への多様なアプローチを論じた関連文献を報告し、討議する
第6回	関連文献の報告、討議③	若年移行期の構造変容とそれがもたらす社会課題への多様なアプローチを論じた関連文献を報告し、討議する
第7回	授業前半の省察、討議	これまでの関連文献の報告、討議をふりかえり、総括的討議をおこなう
第8回	テキストの紹介	後半に報告、討論する関連文献について紹介し、報告者を相談する
第9回	ユースワークに関するレクチャー	授業者よりユースワークに関する基本的レクチャーを行う
第10回	関連文献の報告、討議①	日本と欧州各国におけるユースワークの展開を論じた関連文献を報告、討議する
第11回	関連文献の報告、討議②	日本と欧州各国におけるユースワークの展開を論じた関連文献を報告、討議する
第12回	関連文献の報告、討議③	日本と欧州各国におけるユースワークの展開を論じた関連文献を報告、討議する

第13回	授業後半のふりかえり	授業後半の関連文献の報告、討議をふりかえり、総括的討議をおこなう
第14回	まとめ	各自の研究関心と照らし合わせながら、本授業の全体をふりかえり総括討議をおこなう。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業進行プロセスで提示します。

【参考書】

授業進行プロセスで随時提示しますが、以下などは参考になると思います。
・アンディ・ファーロング他著 (乾彰夫他訳)『若者と社会変容』大月書店、2009年
・平塚眞樹編『若者支援としてのユースワーク』大月書店、2023年
・乾彰夫・本田由紀他編『危機のなかの若者たち：教育とキャリアに関する5年間の追跡調査』東京大学出版会、2017年
・宮本みち子編『若者の権利と若者政策』明石書店、2023年
・中西新太郎他編『ノンエリート青年の社会空間』大月書店、2009年

【成績評価の方法と基準】

授業時の報告 (60点) と討議への参加 (40点) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン開講につき、パソコンとオンライン接続できる環境が必要になります

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

教育学

<研究テーマ>

若年移行期の人間形成、ユースワーク

<主要研究業績>

平塚眞樹編『若者支援としてのユースワーク』大月書店、2023年
Hiratsuka, M., Hara, M., Minamide, K., Nakatsuka, F., Oka, S., Otsu, E., & Yokoe, M. (2024). How can the Values and Ethics of Youth Work be Shared among Practitioners and with the Society? - A Challenge for the 'Story Practice' in Japan. *Ethics and Social Welfare*, 18(2), pp.211 - 222. <https://doi.org/10.1080/17496535.2024.2335384>

【Outline (in English)】

In developed countries, not just in Japan, the transformation of social structures since the end of the 20th century has led to the destabilisation and fluidification in the transition period of youth, and this has become a social problem. In the first half of the class, we will learn about the structural changes in the youth transition and the various approaches to the issues involved, through related literature published in Japan and overseas. In the second half of the class, we will focus on youth work as a form of support for the youth transition, and consider its significance for youth.

SOC500E1 - 0301 (社会学 / Sociology 500)

学際研究2（組織とネットワーク）

宇野 齊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会ネットワークと組織について、理論、分析手法、現象把握を学びます。

【到達目標】

- 1 個人、組織、ネットワーク、社会の相互関係と現象の確認
- 2 ネットワーク分析プロセスの理解
- 3 受講者が組織内のネットワーク分析を実行できる事

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回テーマに関する授業とレポートおよびディスカッションを中心としてすすめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	ガイダンスとイントロダクション	受講者との相互理解を深め、科目の内容などを確認
第02回	システムとネットワーク	システム論、ネットワーク論、組織論の相互関係性の把握
第03回	社会ネットワーク1	基礎的な分析手法と指標
第04回	社会ネットワーク2	パーソナルなネットワーク現象
第05回	社会ネットワーク3	マス／ミドルレベルでのネットワーク現象
第06回	組織1	制度と認知、及び意思決定
第07回	組織2	組織の中の制度的ネットワーク
第08回	組織3	組織の中の認知的ネットワーク
第09回	社会ネットワークと組織1	社会の中のネットワークに生じる組織
第10回	社会ネットワークと組織2	組織間ネットワーク
第11回	分析手法1	ネットワーク情報の収集と分析
第12回	分析手法2	例題による組織内ネットワーク分析
第13回	電子メディアでのネットワーク1	閉鎖的ネットワークと開放的ネットワーク
第14回	電子メディアでのネットワーク2	電子メディアで生じるネットワークと組織

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて授業支援システムに事前準備、事後課題を提示します。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

初回および必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間かつ／または期末のレポート（50%）
授業中の参加度合及び授業後の授業支援システムによるコメント（50%）
その他の貢献は追加的に考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

PCまたはタブレットを利用します。学習支援システムを使用します。必要に応じてインターネット上のサービスを利用します。

【その他の重要事項】

授業計画は授業展開と受講者の目的により若干変更の可能性があり得ます。
対面開講できない場合にはリアルタイムオンラインで実施予定です。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会ネットワーク、組織行動科学、経営学
＜研究テーマ＞コンテンツ産業の組織と社会ネットワーク
＜主要研究業績＞宇野齊（2008）「組織とネットワーク」二神・日置編著、クラスター組織の経営学、中央経済社、第3章

【Outline (in English)】

【Course outline】

You will learn theories, analytical methods, and understanding of phenomena related to social networks and organizations.

【Learning Objectives】

1. Identifying the interrelationships and phenomena of individuals, organizations, networks, and society

2. Understanding the network analysis process

3. Participants will be able to carry out network analysis within an organization

【Learning activities outside of classroom】

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation during class and comments after class via the class support system (50%)

Midterm and/or final reports (50%)

Other contributions will be considered additionally.

SOC500E1 - 0305 (社会学 / Sociology 500)

社会科学研究法 1

大崎 雄二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原則として日本国外の大学を卒業した日本語を第一言語としない外国人留学生を対象とする。

社会科学、社会学の基礎概念を再確認しながら、修士課程における学びの基軸、必要不可欠なアカデミック・リテラシーを具体的に確認し、習熟していく。

【到達目標】

情報・文献検索の方法、データ分析の基本、小論文作成の方法、プレゼンテーションの方法等を確認し、修士課程の学生に相応しい情報の収集と分析、再構築、発信が支障なくできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生参加型のインタラクティブな演習の形態とする。

教員からの問題提起と課題に対し、学生が質問、回答しながらより深い理解と習熟へと進むことができるよう授業を構成する。課題等に対する講評は授業内でコメントするか、個別に伝える。

授業計画は、授業の展開によって若干の変更が生じる可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	アイス・ブレイキング	役割分担決定等
2	情報の整理と要約 (1)	論文の要約 ① キーワード、キープ レーズ
3	情報の整理と要約 (2)	論文の要約 ② 要約のポイント
4	プレゼンテーション (1)	レジュメ作成のポイント ① 形式
5	プレゼンテーション (2)	レジュメ作成のポイント ② 内容
6	プレゼンテーション (3)	スライド作成のポイント
7	プレゼンテーション (4)	効果的な発表、相互批評・検討
8	情報、文献の検索と収集 (1)	データベースの活用
9	情報、文献の検索と収集 (2)	付加情報と脚註
10	情報、文献の検索と収集 (3)	関連文献検索、参考文献一覧作成
11	データ分析の基本 (1)	データ収集、処理の基礎
12	データ分析の基本 (2)	データ分析の基礎
13	小論文の作成 (1)	構想の発表と議論 ① 発表
14	小論文の作成 (2)	構想の発表と議論 ② 議論と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談してから決める。

【参考書】

授業内でテーマごとに複数紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

参加35% + 課題65%で評価したい。

【学生の意見等からの気づき】

よりきめ細かい個別対応を進めるとともに、さらに積極的な議論ができる場作りに努力する。積極的な提案や意見は常に大歓迎。

従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。

【学生が準備すべき機器他】

パーソナルコンピュータを使った実習をおこなう際には事前に通知し、支障のないようにする。

【担当教員の専門分野等】

現代中国（東アジア）地域研究

国民統合、民族政策

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001469/profile.html>

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social sciences and sociology. It also enhances the development of foreign students' skill in making literal and oral presentation and self-regulated learning. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (60%) and in-class contribution (40%).

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読 1 (英語)

堀川 三郎

備考 (履修条件等) : 学部「外書講読 (社会学) 2 A」と合同

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業のキーワードは「1960年代」と「女性」です。このふたつのキーワードを、二人の女性の成し遂げたことの検討を通じて考えてみる——これがこの授業の目的です。

取り上げる一人目は、アメリカの都市思想家ジェイン・ジェイコブス (Jane Jacobs, 1916-2006) です。彼女は「現代都市に必要なのは高速道路か、人間味のある限界か」と鋭く問いかけ、『アメリカ大都市の死と生』を出版しました。同書は都市計画思想を根本から書き換えてしまうようなパラダイム・シフトの起点をつくりました。二人目は、環境問題への向き合い方を不可逆的に変えてしまったナチュラリストで科学者のレイチェル・カーソン (Rachel Carson, 1907-1964) です。彼女の著した『沈黙の春』は大論争を巻き起こし、今日の環境政策の基礎を作ったといっぴよいものです。

そこでこの授業では、英文でジェイコブスとカーソンの生涯と業績を概観し、それがいかに1950年代の「因習」を打ち砕く「1960年代」をもたらしたのか、「女性」の地位をどのように変えたのかについて検討することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 英語読解力の向上
- (2) アメリカにおける「1960年代」「女性」をめぐる研究トレンドの内容を把握すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎回授業では、リーディングとその中身に関するディスカッションを行い、課題部分の内容把握に加えて、より深い意味理解を目指します。単なる英文和訳ではなく、一歩踏み込んだ「意味解釈」を重点的に行います。

まず最初に概説的な文献を読んで、後の英文解釈に必要な基礎知識を習得します。その上でジェイコブスやカーソンについての英語文献の重要な箇所を選んで読み、受講生全員で議論をします。担当教員は、そこにある英文を論理的に読み解くためのコツを解説します。このように初学者でも分かりやすく、段階を踏んで内容をしっかり理解できるような授業を目指します。最終的には、英文を自分で読み解いていく「方法」を習得し、主題をめぐって討論できるようになることを目指します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概略説明と教材についての説明
2	文献講読 [1]	アメリカの1950年代 (1)
3	文献講読 [2]	アメリカの1950年代 (2)
4	文献講読 [3]	1960年代と女性というテーマ設定
5	文献講読 [4]	J. ジェイコブスとは誰か (1)
6	文献講読 [5]	J. ジェイコブスとは誰か (2)
7	文献講読 [6]	J. ジェイコブスとは誰か (3)
8	文献講読 [7]	R. カーソンとは誰か (1)
9	文献講読 [8]	R. カーソンとは誰か (2)
10	文献講読 [9]	R. カーソンとは誰か (3)
11	文献講読 [10]	1960年代の終盤とは
12	文献講読 [11]	1970年代と女性
13	文献講読 [12]	ジェイコブス、カーソン、そして「姉妹たち」
14	春学期のまとめ	全体討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業終了時に指示する次の授業で読む予定の箇所を予習しておくこと。あらかじめ本文の意味を辞書で調べ、和訳ではなく本文の内容を把握しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

適宜プリントを配布します。学生諸君がテキストを購入する必要はありません。

具体的なテキストは、受講者の関心とレベルにあわせて決定しますが、今のところ、下記の文献の一部を抜粋して読む予定です :

[1] Golin, Steve (2022) *Women Who Invented the Sixties: Ella Baker, Jane Jacobs, Rachel Carson, and Betty Friedan*. Jackson, MS: University Press of Mississippi.

[2] Faust, Drew Gilpin (2023) *Necessary Trouble: Growing up at Midcentury*. New York, NY: Farrar, Straus and Giroux.

【参考書】

授業中に適宜指定します。基礎知識習得のための日本語文献は、以下のとおりです :

[1] レイチェル・カーソン [著]・青樹繁一 [訳] (1974) 『沈黙の春 : 生と死の妙薬』 (新潮文庫カ-4-1), 東京 : 新潮社.

[2] ジェイン・ジェイコブス [著]・山形浩生 [訳] (2010) 『アメリカ大都市の死と生』, 東京 : 鹿島出版会.

【成績評価の方法と基準】

予習の成果とディスカッション (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

適宜、授業運営について受講者と話し合う。

【その他の重要事項】

初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。なお、この授業計画は授業の展開に応じて若干の変更があり得ます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境社会学, 都市社会学

<研究テーマ> 歴史的環境保存の社会学, 日米比較社会学

<主要研究業績> 『町並み保存運動の論理と帰結 : 小樽運河問題の社会学的分析』 (東京大学出版会, 2018年), *Why Place Matters* (Springer, 2021), 『産業遺産の社会史』 (共著, 青弓社, 2025年) など

【Outline (in English)】

This class is about “1960s” and “women.” It addresses two questions: How was the sixties “invented” and how women protested against the *status quo* of the fifties? To answer these questions, we will focus on two extraordinary women and their accomplishments. The first one is Jane Jacobs (1916-2006) and her seminal book *Death and Life of Great American Cities* (1961). The second is Rachel Carson (1907-1964) and her *magnum opus*, *Silent Spring* (1962). By reading first and secondary materials on them, students will learn how those two women are instrumental in bringing some of the basic norms to the contemporary society.

It is particularly designed to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to read academic literature in English. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読2 (英語)

武田 俊輔

備考 (履修条件等) : 学部「外書講読 (社会学) 2 B」と合同

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

担当者が分担執筆している Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützel, Sebastian Polak-Rottmann(eds), Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery (Routledge,2020) をテキストとして、現代日本の地域社会について学ぶ。ヨーロッパの日本学 (Japanology) の研究者たちが人口減少の進む日本の地域社会をどのように論じているかについて学ぶことで、日本の地域社会について理解するための視点を得る。

【到達目標】

英語で書かれた日本社会に関するテキストを読めるようになること。日本の地域社会について、海外との比較の視点も持ちつつ社会学的な視点で理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

受講者が分担して、テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する。単なる要約ではなく不明点や疑問点を明確にすること、また各章で紹介される地域社会の状況について事前に報告者は下調べして、他の受講生に対して説明することが求められる。その上で、全員で質疑応答とディスカッションを行う。なおどの章をとりあげるかは学生の英語力や関心によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的とテーマ、レジュメの作り方について
2	Chapter 1 (前半) の講読	Chapter 1 (前半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
3	Chapter 1 (後半) の講読	Chapter 1 (後半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
4	Chapter 2 (前半) の講読	Chapter 2 (前半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
5	Chapter 2 (後半) の講読	Chapter 2 (後半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
6	Chapter 4 (前半) の講読	Chapter 4 (前半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
7	Chapter 4 (後半) の講読	Chapter 4 (後半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
8	Chapter 5 (前半) の講読	Chapter 5 (前半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
9	Chapter 5 (後半) の講読	Chapter 5 (後半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
10	Chapter 6 (前半) の講読	Chapter 6 (前半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
11	Chapter 6 (後半) の講読	Chapter 6 (後半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
12	Chapter 8 (前半) の講読	Chapter 8 (前半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
13	Chapter 8 (後半) の講読	Chapter 8 (後半) の講読、担当者の報告、ディスカッション
14	総括討論	本書のここまでの内容をふまえた日本の地域社会に関する総括討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週のテキストの講読部分を事前に辞書を引きながら熟読し、理解を深めるとともに、内容に関する不明な点や疑問点、派生的な関心について明確にすること。それが質疑応答・ディスカッションを行う上での前提となる。英語の授業というより社会学や地域社会に関する授業なので、そうした観点からのディスカッションに時間をできるだけ使う。また授業終了後にこの講読をふまえて、日本の地域社会に関するレポートを提出してもらうことになる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützel, Sebastian Polak-Rottmann(eds), 2020, Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery, Routledge.
テキストは担当教員が用意する (もし購入できる人がいればその方が望ましい)。

【参考書】

その都度、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70 %) : テキストの担当部分、紹介される文献の下調べ、派生的な関心についての報告の質、および各回の討議への参加・貢献度にもとづき評価する。
レポート (30 %) : 原典講読にもとづく課題レポートの内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初回のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

文献の配布はHoppii経由、レジュメのアップロードと共有はこちらで指定する Google Drive を使用する。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/110/0010944/profile.html>

【Outline (in English)】

Students learn about contemporary local community in Japan. The textbook is "Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery" (Routledge,2020) edited by Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützel, Sebastian Polak-Rottmann.

They can get perspectives to understand local depopulated communities by learning how European researchers who major in Japanology analyze such communities.

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読 1 (英語)

鈴木 宗徳

備考 (履修条件等) : 学部「外書講読 (メディア社会学) 1 A」と合同

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

未邦訳の学術的な英文テキストを講読し、アカデミックな英文の読解に慣れる。

【到達目標】

英語の学術的文献を正確に理解する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎週2〜3ページずつテキスト講読を進めるが、受講者は必ず全訳を準備して授業に臨むこと。授業では一文ずつ訳読しながら理解を深めてゆき、文の構造や文脈について解説を加える。AIの発達によって外国語の文章の大意を把握することは容易になったが、機械翻訳では到達できない背景を含めた正確な理解を目指す。

テキストは『ポスト・トゥルース、フェイク・ニュース、民主主義』という比較的平易な学術書で、とり上げる章は、第1次トランプ政権、コロナ危機、ロシアのウクライナ侵攻の時期におけるアメリカの事情を説明している。

授業内容やテストについての履修者の質問には、授業内やメールで迅速に対応する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テキストの説明
第2回	テキスト講読 (1)	訳読と内容の検討
第3回	テキスト講読 (2)	訳読と内容の検討
第4回	テキスト講読 (3)	訳読と内容の検討
第5回	テキスト講読 (4)	訳読と内容の検討
第6回	テキスト講読 (5)	訳読と内容の検討
第7回	テキスト講読 (6)	訳読と内容の検討
第8回	中間テスト	内容の理解度を測る
第9回	テキスト講読 (7)	訳読と内容の検討
第10回	テキスト講読 (8)	訳読と内容の検討
第11回	テキスト講読 (9)	訳読と内容の検討
第12回	テキスト講読 (10)	訳読と内容の検討
第13回	テキスト講読 (11)	訳読と内容の検討
第14回	テキスト講読 (12)	訳読と内容の検討

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回必ず予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Johan Farkas and Jannick Schou, Post-Truth, Fake News and Democracy: Mapping the Politics of Falsehood, Second Edition, Routledge, 2004, より、第5章の Crisis upon Crisis を読む。

※テキストは学習支援システムにアップロードしておくので、事前に1〜2段落読んで難易度を確認しておくこと。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績 (50%) と期末テストの成績 (50%)。ただし、2回欠席することになると成績評価を一段階ずつ下げる (S→A+, A+→A, A→A- …)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

学習支援システムによる連絡に気を付けること。質問は担当教員にメールで連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会学理論

<研究テーマ> 現代における批判的社会理論の課題

<主要研究業績>

『危機に対峙する思考』(共編著、梓出版社、2016)

『個人化するリスクと社会——ベック理論と現代日本』(編著、勁草書房、2015)

『「私」をひらく社会学——若者のための社会学入門』(共著、大月書店、2014)

『リスク化する日本社会——ウルリッヒ・ベックとの対話』(共編、岩波書店、2011)

【Outline (in English)】

In this course, students will practice reading academic English texts. Each week, two to three pages from the text will be read, and students must come to class with a full translation of the text. In class, students will translate one sentence at a time to deepen their understanding and to explain sentence structure and context.

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読2 (英語)

鈴木 宗徳

備考 (履修条件等)：学部「外書講読 (メディア社会学) 1 B」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

未邦訳の学術的な英文テキストを講読し、アカデミックな英文の読解に慣れる。

【到達目標】

英語の学術的文献を正確に理解する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎週2〜3ページずつテキスト講読を進めるが、受講者は必ず全訳を準備して授業に臨むこと。授業では一文ずつ訳読しながら理解を深めてゆき、文の構造や文脈について解説を加える。AIの発達によって外国語の文章の大意を把握することは容易になったが、機械翻訳では到達できない背景を含めた正確な理解を目指す。

テキストは学生向けの教科書として編集され、とり上げる章では、デジタル・アクティビズムという観点からブラック・ライブズ・マター運動の意義を説明している。

授業内容やテストについての履修者の質問には、授業内やメールで迅速に対応する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テキストの説明
第2回	テキスト講読 (1)	訳読と内容の検討
第3回	テキスト講読 (2)	訳読と内容の検討
第4回	テキスト講読 (3)	訳読と内容の検討
第5回	テキスト講読 (4)	訳読と内容の検討
第6回	テキスト講読 (5)	訳読と内容の検討
第7回	テキスト講読 (6)	訳読と内容の検討
第8回	中間テスト	内容の理解度を測る
第9回	テキスト講読 (7)	訳読と内容の検討
第10回	テキスト講読 (8)	訳読と内容の検討
第11回	テキスト講読 (9)	訳読と内容の検討
第12回	テキスト講読 (10)	訳読と内容の検討
第13回	テキスト講読 (11)	訳読と内容の検討
第14回	テキスト講読 (12)	訳読と内容の検討

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回必ず予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Regina Luttrell, Lu Xiao, Jon Glass(eds.), *Democracy in the Disinformation Age: Influence and Activism in American Politics*, より、第2章の "Woke" Culture: The Societal and Political implications of Black Lives Matter Digital Activism, by Jasmine Roberts を読む。

※テキストは事前に学習支援システムにアップロードしておくので、事前に1〜2段落読んで難易度を確認しておくこと。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績 (50%) と期末テストの成績 (50%)。ただし、2回欠席するごとに、成績評価を一段階ずつ下げます (S→A+、A+→A、A→A- …)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

学習支援システムによる連絡に気を付けること。質問は担当教員にメールで連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会学理論

<研究テーマ> 現代における批判的社会理論の課題

<主要研究業績>

『危機に対峙する思考』(共編著、粹出版社、2016)

『個人化するリスクと社会——ベック理論と現代日本』(編著、勁草書房、2015)

『私』をひらく社会学——若者のための社会学入門』(共著、大月書店、2014)

『リスク化する日本社会——ウルリッヒ・ベックとの対話』(共編、岩波書店、2011)

【Outline (in English)】

In this course, students will practice reading academic English texts. Each week, two to three pages from the text will be read, and students must come to class with a full translation of the text. In class, students will translate one sentence at a time to deepen their understanding and to explain sentence structure and context.

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読 1 (仏語)

高橋 愛

備考(履修条件等): 学部「フランス語3A(講読)・上級B1」と合同
その他属性:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代まで全世界的に息の長い人気を持ち、1897年の初演以降フランス国内だけでも1万回以上は上演されているといわれるエドモン・ロスタンの名作『シラノ・ド・ベルジュラック』を、現代フランス語によってリライトされた版で読みます。

講読と合わせて原作の戯曲から翻案された舞台や映画を鑑賞するほか、さまざまな階層の人々が集まる社交の場であった劇場の様子や、ルイ13世とリシュリューの時代を背景に奔放に颯爽と生きるシラノという無双の人物像、彼の流麗なフランス語の美しさなど、今日まで多くの人を引きつける作品のさまざまな魅力を学び、文化や社会も理解しながらより高い語学力を身につけます。

【到達目標】

・辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指します。
・イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、みずからフランス語で表現するうえで必要とされる全般的な知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・毎回、教員が指定したテキストを予習し、構文や時制などに注意して、全員で確認します。(難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでください。)辞書を必ず持参すること。
・授業のはじめに、前回の内容に対して示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを実施します。
・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成や進め方、教科書の紹介、エドモン・ロスタン『シラノ・ド・ベルジュラック』の説明
2	Chapitre 1 Le théâtre de l'hôtel de Bourgogne	p.5~p.6
3	Chapitre 1 Le théâtre de l'hôtel de Bourgogne	p.7~p.8
4	Chapitre 1 Le théâtre de l'hôtel de Bourgogne	p.9~p.10
5	Chapitre 1 Le théâtre de l'hôtel de Bourgogne	p.12~p.13
6	Chapitre 1 Le théâtre de l'hôtel de Bourgogne	p.14~p.16
7	Chapitre 2 La pâtisserie de maître Ragueneau	p.17~p.18
8	Chapitre 2 La pâtisserie de maître Ragueneau	p.19~p.20
9	Chapitre 2 La pâtisserie de maître Ragueneau	p.21~p.22
10	Chapitre 2 La pâtisserie de maître Ragueneau	p.23~p.25
11	Chapitre 2 La pâtisserie de maître Ragueneau	p.26~p.27
12	Chapitre 3 Un mariage sous la lune	p.29~p.30

13	Chapitre 3 Un mariage sous la lune	p.31~p.34
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Edmond Rostand, *Cyrano de Bergerac*, Paris, Hachette, 2011.

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・今年度の教材選定にあたっては、「フランス語で書かれた作品を読み切りたい」という受講生のリクエストを反映しています。文法の確認・復習、動詞の選択・活用などについてより高度な知識を習得し、全般的にバランスよく語学力が向上する授業を行います。
・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てください。フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けます。(メールも可。)

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their university studies. Grading will be based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読2 (仏語)

高橋 愛

備考(履修条件等): 学部「フランス語4A(講読)・上級B4」と合同
その他属性:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

春学期に引き続き、現代まで全世界的に息の長い人気を持ち、1897年の初演以降フランス国内だけでも1万回以上は上演されているといわれるエドモン・ロスタンの名作『シラノ・ド・ベルジュラック』を、現代フランス語によってリライトされた版で読みます。

講読と合わせて原作の戯曲から翻案された舞台や映画を鑑賞するほか、さまざまな階層の人々が集まる社交の場であった劇場の様子や、ルイ13世トリシュリューの時代を背景に奔放に颯爽と生きるシラノという無双の人物像、彼の流麗なフランス語の美しさなど、今日まで多くの人を引きつける作品のさまざまな魅力を学び、文化や社会も理解しながらより高い語学力を身につけます。

【到達目標】

・辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指します。
・イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、みずからフランス語で表現するうえで必要とされる全般的な知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・毎回、教員が指定したテキストを予習し、構文や時制などに注意して、全員で確認します。(難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでください。)辞書を必ず持参すること。
・授業のはじめに、前回の内容に対して示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを実施します。
・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapitre 4 La guerre de Cyrano	p.35
2	Chapitre 4 La guerre de Cyrano	p.36~p.37
3	Chapitre 4 La guerre de Cyrano	p.38~p.39
4	Chapitre 4 La guerre de Cyrano	p.40~p.41
5	Chapitre 4 La guerre de Cyrano	p.42~p.43
6	Chapitre 4 La guerre de Cyrano	p.45
7	Chapitre 5 Quinze ans après	p.47
8	Chapitre 5 Quinze ans après	p.48~p.49
9	Chapitre 5 Quinze ans après	p.50
10	Chapitre 5 Quinze ans après	p.51~p.52
11	Chapitre 5 Quinze ans après	p.53
12	Chapitre 5 Quinze ans après	p.54
13	全体のふりかえり	総復習
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Edmond Rostand, *Cyrano de Bergerac*, Paris, Hachette, 2011.

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・今年度の教材選定にあたっては、「フランス語で書かれた作品を読み切りたい」という受講生のリクエストを反映しています。文法の確認・復習、動詞の選択・活用などについてより高度な知識を習得し、全般的にバランスよく語学力が向上する授業を行います。
・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てください。フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けます。(メールも可。)

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their university studies. Grading will be based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読 1 (独語)

濱中 春

備考 (履修条件等) : 学部「ドイツ語 3A (講読)・上級 B1」と合同
その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オーストリアの首都ウィーンをテーマとして、街並みや食べ物、習慣、気質、日常生活、芸術など、さまざまなトピックをとりあげた文章を読むことを通して、ドイツ語の文法の知識を深め、語彙を増やしながら、読解力を向上させます。
また、日本ではかならずしもよく知られているとはかぎらないオーストリアやウィーンの文化を通して、ドイツ語圏の多様性にたいしても視野を広げます。

【到達目標】

- ・一般的なドイツ語で書かれたある程度まとまった長さの文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の構文を正確に把握することができ、文法知識と語彙力をレベルアップさせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

テキストは、文法的に簡単なものから始まり、読み進めていくうちに少しずつレベルが上がっていくようになっています。
毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句の表現に注意しながら訳読します。
また、テキストの内容を確認する問題や、語彙、発音と聞き取り、文法にかんする練習問題にも取り組み、読解力を中心にドイツ語の運用能力を高めていきます。
質問や予習の内容には授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面 / face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方
2	Kapitel 1 : Auf dem Stephansturm	「シュテファン大聖堂の上で」
3	Kapitel 1 : Auf dem Stephansturm	練習問題
4	Kapitel 2 : Es ist kompliziert	「ややこしい」
5	Kapitel 2 : Es ist kompliziert	練習問題
6	Kapitel 3 : Das isst man in Wien wirklich	「ウィーンで実際に食べられているもの」①
7	Kapitel 3 : Das isst man in Wien wirklich	「ウィーンで実際に食べられているもの」②
8	Kapitel 3 : Das isst man in Wien wirklich	練習問題
9	Kapitel 4 : Die Hauptstadt der Musik?	「音楽の都？」①
10	Kapitel 4 : Die Hauptstadt der Musik?	「音楽の都？」②
11	Kapitel 4 : Die Hauptstadt der Musik?	練習問題
12	Kapitel 5 : Gehen wir einkaufen!	「買い物に行こう！」①
13	Kapitel 5 : Gehen wir einkaufen!	「買い物に行こう！」②
14	Kapitel 5 : Gehen wir einkaufen!	練習問題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回の授業範囲のテキストや練習問題を予習する。
授業後には、事前にわからなかった箇所や間違っていた箇所を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】
Susanne Schermann・相原剣『Allerlei Wien (ウィーン万華鏡)』(三修社)

【参考書】
独和辞典を持参してください。
その他の参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習状況・授業への参加状況) 100 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや目的意識に柔軟に対応します。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001976/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading texts on various topics about the culture of Vienna and Austria. Students will also broaden their perspective on the diversity of German-speaking area.
Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the text and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.
Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions (100%).

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読2 (独語)

濱中 春

備考 (履修条件等)：学部「ドイツ語4A (講読)・上級B4」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オーストリアの首都ウィーンをテーマとして、街並みや食べ物、習慣、気質、日常生活、芸術など、さまざまなトピックをとりあげた文章を読むことを通して、ドイツ語の文法の知識を深め、語彙を増やしながら、読解力を向上させます。
また、日本ではかならずしもよく知られているとはかぎらないオーストリアやウィーンの文化を通して、ドイツ語圏の多様性にたいしても視野を広げます。

【到達目標】

- ・一般的なドイツ語で書かれたある程度まとまった長さの文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の構文を正確に把握することができ、文法知識と語彙力をレベルアップさせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

テキストは、文法的に簡単なものから始まり、読み進めていくうちに少しずつレベルが上がっていくようになっています。
毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句の表現に注意しながら訳読します。
また、テキストの内容を確認する問題や、語彙、発音と聞き取り、文法にかんする練習問題にも取り組み、読解力を中心にドイツ語の運用能力を高めていきます。
質問や予習の内容には授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Kapitel 6 : Ausflüge ins Grüne	「野外へのハイキング」
2	Kapitel 6 : Ausflüge ins Grüne	練習問題
3	Kapitel 7 : Skifahren ist wunderbar!	「スキーは素晴らしい！」①
4	Kapitel 7 : Skifahren ist wunderbar!	「スキーは素晴らしい！」②
5	Kapitel 7 : Skifahren ist wunderbar!	練習問題
6	Kapitel 8 : Unser Zug	「私たちの列車」①
7	Kapitel 8 : Unser Zug	「私たちの列車」②
8	Kapitel 8 : Unser Zug	練習問題
9	Kapitel 9 : Ein echter Wiener	「真のウィーン人」①
10	Kapitel 9 : Ein echter Wiener	「真のウィーン人」②
11	Kapitel 9 : Ein echter Wiener	練習問題
12	Kapitel 10 : In Wien ist die Welt zu Hause	「ウィーンは世界の人々のホーム」①
13	Kapitel 10 : In Wien ist die Welt zu Hause	「ウィーンは世界の人々のホーム」②
14	Kapitel 10 : In Wien ist die Welt zu Hause	練習問題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

今回の授業範囲のテキストや練習問題を予習する。
授業後には、事前にわからなかった箇所や間違っていた箇所を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Susanne Schermann・相原剣『Allerlei Wien (ウィーン万華鏡)』(三修社)

【参考書】

独和辞典を持参してください。
その他の参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習状況・授業への参加状況) 100 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや目的意識に柔軟に対応します。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001976/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading texts on various topics about the culture of Vienna and Austria. Students will also broaden their perspective on the diversity of German-speaking area.
Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the text and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions (100%).

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国書講読 1 (中国語)

大崎 雄二

備考 (履修条件等) : 学部「中国語 3A (講読)・上級 B1」と合同

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代漢語 (中国語) で書かれた文章を正確に読み解く練習を繰り返し、読解力の向上をはかりながら、中国語圏の社会や文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 辞書を引くことに慣れ、音や意味を「類推する力」をつける
- (2) 文成分の分析が正確にできる
- (3) 書きことは独自の表現や構造に慣れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

主語、述語、修飾語、補語等の文成分や文の構造の分析をしながら文意を正確に理解する練習を重ねます。最初はローマ字 (ピンイン) つきのテキストを使います。

さまざまな問題のある「近代学校」システムの一斉授業ではなく、「寺子屋式」のオンデマンド方式の時間です。翻訳の講評は個別に詳細に、提出物はこまかくコメントをつけて返却します。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更をすることもあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文成分の分析 (1)	ピンインつきの文 (1)
2	文成分の分析 (2)	ピンインつきの文 (2)
3	文成分の分析 (3)	ピンインつきの文 (3)
4	文成分の分析 (4)	ピンインつきの文 (4)
5	文成分の分析 (5)	ピンインなしの文 (1)
6	文成分の分析 (6)	ピンインなしの文 (2)
7	文成分の分析 (7)	ピンインなしの文 (3)
8	精読の基礎 (1)	辞書 / web の活用 (1)
9	精読の基礎 (2)	辞書 / web の活用 (2)
10	精読の基礎 (3)	辞書 / web の活用 (3)
11	精読の基礎 (4)	辞書 / web の活用 (4)
12	精読の基礎 (5)	辞書にない単語 (1)
13	精読の基礎 (6)	辞書にない単語 (2)
14	精読の基礎 (7)	辞書にない単語 (3)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントと学習支援システムで配布します。

【参考書】

辞書や参考書などは、その都度具体的に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを 100 % として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間にしていきたいと考えています。個別の要望などは遠慮なく言ってください。

【その他の重要事項】

せっかく積みあげてきた中国語、もう一踏ん張りして、研究や業務で実際に「使える中国語」にしていきたいと思います。

将来の留学や研究、業務に役立てるために読解力の向上に取り組みたい学生、現代漢語 (中国語) 文化圏の「現在進行形」の政治や経済、社会、文化に興味をもつ好奇心旺盛な学生は大歓迎です。

【担当教員の専門分野等】

現代中国 (東アジア) 地域研究

国民統合、民族政策

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001469/profile.html>

【Outline (in English)】

By repeatedly practicing accurately reading and interpreting texts written in modern Chinese, students will improve their reading comprehension while deepening their understanding of Chinese-speaking societies and cultures.

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読2 (中国語)

大崎 雄二

備考 (履修条件等) : 学部「中国語4A (講読)・上級B4」と合同

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代漢語 (中国語) で書かれた文章を正確に読み解く練習をさらに重ね、読解を通じて、中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深めていきます。

【到達目標】

- 「1」で伸ばした読解力を基礎にして、さまざまな文章の読解練習を続けます。
- (1) 長く難解な文の読解 (文成分、文の構造分析の徹底)
 - (2) 辞書に載っていない新語や表現の解釈のための情報収集
 - (3) 繁体字の文章の読解に挑戦する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

さまざまな文章の読解を通じ、慣用的な表現にも慣れ、「言語の翻訳」だけではなく、背景理解 = 「文化や社会の翻訳」にまで踏み込み、さらに深く、包括的な理解を進めます。

さまざまな問題のある「近代学校」システムの一斉授業ではなく、「寺子屋式」のオンデマンド方式の時間です。翻訳の講評は個別に詳細に、提出物はこまかくコメントをつけて返却します。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更をすることもあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	精読 (1)	新聞記事 (1)
2	精読 (2)	新聞記事 (2)
3	精読 (3)	新聞記事 (3)
4	精読 (4)	雑誌記事 (1)
5	精読 (5)	雑誌記事 (2)
6	精読 (6)	雑誌記事 (3)
7	精読 (7)	雑誌記事 (4)
8	多読 (1)	繁体字の文章 (1)
9	多読 (2)	繁体字の文章 (2)
10	多読 (3)	繁体字の文章 (3)
11	多読 (4)	繁体字の文章 (4)
12	速読 (1)	書籍 (1)
13	速読 (2)	書籍 (2)
14	速読 (3)	書籍 (3)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントと学習支援システムで配布します。

【参考書】

辞書や参考書などは、その都度具体的に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間にしていきたいと考えています。個別の要望などは遠慮なく言ってください。

【その他の重要事項】

辞書を丹念に引き、文成分をきちんと確認していくという地道な努力を重ねていくうちに、WEB上の記事や新聞などがだんだんとよくわかるようになり、自分でも驚くほどの力がついていることにある日突然気が付くはず。一日も早いその日の到来を楽しみに、一緒にコツコツと積みあげていきましょう。

【担当教員の専門分野等】

現代中国 (東アジア) 地域研究

国民統合、民族政策

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001469/profile.html>

【Outline (in English)】

Students will receive further practice in accurately reading and interpreting texts written in modern Chinese, and through reading comprehension, students will further deepen the understanding of Chinese-speaking societies and cultures.

SOC500E1 - 0309 (社会学 / Sociology 500)

社会学原典講読

二村 まどか

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会学原典研究 1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際問題や各国事情を幅広く扱う英国の新聞雑誌『The Economist』の記事を読みながら、難易度の高い英文に慣れ親しむと同時に、国際社会の時事問題についての理解を深める。

【到達目標】

短いながらも難易度の高い論説記事の英語に慣れ、要点を理解しながらメリハリをつけて読むことができるようになることを目指す。講読した文献の簡単な要約を【英文で】作れるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

3～4本の論説記事と1本の学術論文を読み終えることを目指す。重要・難解な箇所は逐語訳を行うが、通常は各文・パラグラフの要点をつかみながら、読み進める。また記事の内容の背景についても説明を行う。提出された課題のフィードバックも授業中に行う。授業計画及び扱うテキストや記事の内容は、受講者の関心分野に合わせて変更。調整する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）について
第2回	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
第3回	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
第4回	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
第5回	The Economist の記事②	テキストの和訳と内容把握
第6回	The Economist の記事②	テキストの和訳と内容把握
第7回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第8回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第9回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第10回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第11回	The Economist の記事③	テキストの和訳と内容把握
第12回	The Economist の記事③	テキストの和訳と内容把握
第13回	The Economist の記事④	テキストの和訳と内容把握
第14回	The Economist の記事④	テキストの和訳と内容把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしていく必要はない）。各文献を読み終えた後、【英文要約】（300-400 words）を提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英国の新聞雑誌『The Economist』の論説記事と国際問題を扱う学術雑誌の論文を用いる。テキストは授業で配布する。
なお、テキストの内容は、受講者の関心に合わせて変更する場合もある。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、テキストの和訳、リアクション・ペーパーのコメント、ディスカッションへの参加など）：40 %
課題の提出（各記事の英文要約）：60 %

【学生の意見等からの気づき】

履修者の研究テーマにできるだけ合わせて、テーマや文献を選びたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 国際関係論

＜研究テーマ＞ 国際安全保障、平和構築、国際刑事裁判

【Outline (in English)】

This course uses articles from The Economist and academic journals to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. Students are required to go through the materials before the class and grasp the content and check the vocabulary. After reading each material, students are asked to submit a short summary in English. Students are assessed by submitted summaries and their class participation. The course is for those with advanced English level.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

藤田 真文

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞メディア論、マス・コミュニケーション論
＜研究テーマ＞ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞『ギフト、再配達：テレビ・テキスト分析入門』せりか書房、2006年。藤田真文（共編著：丹羽美之）『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会、2013年。藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016年。藤田真文『テレビドラマ研究の教科書：ジェンダー・家族・都市』2024年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

三井 さよ

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

平塚 眞樹

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

教育学

＜研究テーマ＞

若年移行期と Youth Work

＜主要研究業績＞

平塚眞樹編（2023）『ユースワークとしての若者支援』大月書店

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>産業社会学・国際社会学

<研究テーマ>国際移動、労使関係、労働運動

<主要研究業績>恵羅さとみ『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』2021年、名古屋大学出版会

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

藤田 真文

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞メディア論、マス・コミュニケーション論
＜研究テーマ＞ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞『ギフト、再配達：テレビ・テキスト分析入門』せりか書房、2006年。藤田真文（共編著：丹羽美之）『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会、2013年。藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016年。藤田真文『テレビドラマ研究の教科書：ジェンダー・家族・都市』2024年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

三井 さよ

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

平塚 眞樹

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

教育学

＜研究テーマ＞

若年移行期と Youth Work

＜主要研究業績＞

平塚眞樹編（2023）『ユースワークとしての若者支援』大月書店

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>産業社会学・国際社会学
<研究テーマ>国際移動、労使関係、労働運動
<主要研究業績>恵羅さとみ『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』2021年、名古屋大学出版会

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

藤田 真文

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞メディア論、マス・コミュニケーション論
＜研究テーマ＞ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞『ギフト、再配達：テレビ・テキスト分析入門』せりか書房、2006年。藤田真文（共編著：丹羽美之）『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会、2013年。藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016年。藤田真文『テレビドラマ研究の教科書：ジェンダー・家族・都市』2024年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

三井 さよ

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>産業社会学・国際社会学

<研究テーマ>国際移動、労使関係、労働運動

<主要研究業績>恵羅さとみ『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』2021年、名古屋大学出版会

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

鈴木 智之

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

理論社会学、文化社会学

<研究テーマ>

記憶と語りの社会学

<主要研究業績>

『不確かさの軌跡』（ゆみる出版、2023年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

藤代 裕之

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」を確認してください。
<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/30/0002965/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡB

藤田 真文

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正（1）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正（2）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正（3）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正（4）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導（1）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導（2）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導（3）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞メディア論、マス・コミュニケーション論
＜研究テーマ＞ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞『ギフト、再配達：テレビ・テキスト分析入門』せりか書房、2006年。藤田真文（共編著：丹羽美之）『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会、2013年。藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016年。藤田真文『テレビドラマ研究の教科書：ジェンダー・家族・都市』2024年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡB

三井 さよ

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正（1）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正（2）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正（3）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正（4）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導（1）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導（2）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導（3）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡB

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正（1）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正（2）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正（3）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正（4）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導（1）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導（2）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導（3）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞産業社会学・国際社会学
＜研究テーマ＞国際移動、労使関係、労働運動
＜主要研究業績＞恵羅さとみ『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』2021年、名古屋大学出版会

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡB

鈴木 智之

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正（1）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正（2）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正（3）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正（4）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導（1）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導（2）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導（3）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

理論社会学・文化社会学

＜研究テーマ＞

語りと自己

＜主要研究業績＞

『不確かさの軌跡』2023年、ゆみる出版

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡB

藤代 裕之

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正（1）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正（2）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正（3）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正（4）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導（1）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導（2）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導（3）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」を確認してください。
<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/30/0002965/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0102 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅡA

佐藤 成基

備考（履修条件等）：博士後期課程2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0102 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅡA

堅田 香緒里

備考（履修条件等）：博士後期課程2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会福祉学、社会政策
＜研究テーマ＞貧困、対貧困政策
＜主要研究業績＞堅田香緒里（2019）「生活困窮者支援における『市民福祉』の制度化をめぐる一考察」『福祉社会学研究』vol.16.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0102 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅡA

小林 直毅

備考（履修条件等）：博士後期課程2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003年）

『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004年）

『水俣学講義【第2集】』（共著、日本評論社、2005年）

『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006年）

『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007年）

『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007年）

『ポピュラーTV』（共著、風塵社、2009年）

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012年）

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013年）

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014年）

『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0103 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅡB

佐藤 成基

備考（履修条件等）：博士後期課程2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文を、年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0103 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅡB

堅田 香緒里

備考（履修条件等）：博士後期課程2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文を、年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会福祉学、社会政策

＜研究テーマ＞貧困、対貧困政策

＜主要研究業績＞堅田香緒里（2019）「生活困窮者支援における『市民福祉』の制度化をめぐる一考察」『福祉社会学研究』vol.16.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0103 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅡB

小林 直毅

備考（履修条件等）：博士後期課程2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文を、年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003年）

『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004年）

『水俣学講義【第2集】』（共著、日本評論社、2005年）

『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006年）

『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007年）

『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007年）

『ポピュラーTV』（共著、風塵社、2009年）

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育

への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012年）

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013年）

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014年）

『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

鈴木 智之

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

理論社会学、文化社会学

＜研究テーマ＞

記憶と語りの社会学

＜主要研究業績＞

『不確かさの軌跡』（ゆみる出版、2023年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

愼 蒼宇

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

岡野内 正

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会理論、国際政治経済学
＜研究テーマ＞グローバル・ベーシック・インカム研究
＜主要研究業績＞岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021年）、岡野内他著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年）など。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

藤田 真文

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞メディア論、マス・コミュニケーション論
＜研究テーマ＞ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞『ギフト、再配達:テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著:丹羽美之)『メディアが震えた:テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論:テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。藤田真文『テレビドラマ研究の教科書:ジェンダー・家族・都市』2024年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

鈴木 智之

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

理論社会学、文化社会学

＜研究テーマ＞

記憶と語りの社会学

＜主要研究業績＞

『不確かさの軌跡』（ゆみる出版、2023年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

愼 蒼宇

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

岡野内 正

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会理論、国際政治経済学
＜研究テーマ＞グローバル・ベーシック・インカム研究
＜主要研究業績＞岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021年）、岡野内他著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年）など。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

藤田 真文

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>『ギフト、再配達:テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著:丹羽美之)『メディアが震えた:テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論:テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。藤田真文『テレビドラマ研究の教科書:ジェンダー・家族・都市』2024年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0200 (社会学 / Sociology 700)

社会学総合演習A

社会学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程の学生が、査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れてまとめた研究論文を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究論文執筆のスキルを高めることを本科目の目的とする。また、参加する院生がお互いの研究論文を検討することを通じて、研究論文執筆のスキルを相互に学ぶ機会とする。

【到達目標】

査読付きの学術雑誌への論文掲載や学会での研究発表に向けて研究論文を執筆し、その内容を報告し、フィードバックを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

7月下旬頃に、院生が査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れて作成した研究論文に対して、複数の教員が「模擬査読」をおこなう「投稿論文検討会」を開催する。履修学生は所定の期限（6月末予定）までに、当日検討する研究論文を担当教員に提出すること。投稿論文検討会までの論文作成指導は指導教員が、それ以後の論文改善指導は「模擬査読」担当教員がおこなう。課題等へのフィードバックは「投稿論文検討会」内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文作成指導（1）	指導教員による
第2回	論文作成指導（2）	指導教員による
第3回	論文作成指導（3）	指導教員による
第4回	論文作成指導（4）	指導教員による
第5回	論文作成指導（5）	指導教員による
第6回	投稿論文検討会	1時限
第7回	投稿論文検討会	2時限
第8回	投稿論文検討会	3時限
第9回	投稿論文検討会	4時限
第10回	投稿論文検討会	5時限
第11回	論文改善指導（1）	模擬査読担当者による
第12回	論文改善指導（2）	模擬査読担当者による
第13回	論文改善指導（3）	模擬査読担当者による
第14回	論文改善指導（4）	模擬査読担当者による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

提出された研究論文と当日の報告内容をふまえ、P（合格）／F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help doctoral students improve their research and writing skills for peer reviewed papers. Each participant is expected to give advice to other students as well as learn from the teaching staff's advice. Grading (P/F) will be decided based on whether you present a paper or not.

SOC700E1 - 0201 (社会学 / Sociology 700)

社会学総合演習B

社会学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆にむけて、博士後期課程の学生が自分の博士論文の構想を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究の指針を得ることを目的とする。また、参加する院生が相互にそれぞれの問題意識や研究方法から学ぶ機会とする。

【到達目標】

先行研究を踏まえ、自身の問題意識を明確化し、研究内容について理解を深め、研究のさらなる進展またはよりよい研究の成果にむけて検討を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

12月中旬頃に、博士論文の構想を報告する「博論構想報告会」を開催する。履修学生は所定の期限（1月中旬予定）までに、報告タイトルを担当教員に提出すること。博論構想報告会の前の博論構想指導、報告会の後の博論執筆指導は、いずれも指導教員がおこなう。課題等へのフィードバックは「博論構想報告会」内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博論構想指導（1）	指導教員による
第2回	博論構想指導（2）	指導教員による
第3回	博論構想指導（3）	指導教員による
第4回	博論構想指導（4）	指導教員による
第5回	博論構想指導（5）	指導教員による
第6回	博論構想報告会	1時限
第7回	博論構想報告会	2時限
第8回	博論構想報告会	3時限
第9回	博論構想報告会	4時限
第10回	博論構想報告会	5時限
第11回	博論執筆指導（1）	指導教員による
第12回	博論執筆指導（2）	指導教員による
第13回	博論執筆指導（3）	指導教員による
第14回	博論執筆指導（4）	指導教員による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

博論構想報告会当日の報告をふまえ、P（合格）／F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help doctoral students finish their Ph.D. dissertation. Each participant is expected to report his/her plan for the dissertation and improve it by advice from teaching staff and other students. Grading (P/F) will be decided based on whether you report your plan for the dissertation or not.

SOC500E1 - 0200 (社会学 / Sociology 500)

社会学研究 1

GEORGE HANN

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class we will explore the world of English rhetoric, the art of effective communication. Understanding how people communicate is empowering to both readers and creators of texts. We will examine the ways in which others communicate and will critically analyze the methods they use so we can judge the effectiveness of their arguments. As you learn what works and what doesn't work in creating an effective argument in English, you will focus on applying those lessons within your own writing so that you may become an effective producer of English texts yourself.

【到達目標】

- ・ Summarizing/paraphrasing others' ideas.
- ・ Reflecting and analyzing ideas.
- ・ Responding to other's ideas.
- ・ Reading critically.
- ・ Understanding the components of an argument.
- ・ Understanding the structure of an argument.
- ・ Reasoning for or against a claim.
- ・ Presenting ideas from external sources.
- ・ Synthesizing multiple sources.
- ・ Formulating and presenting an original argument.
- ・ Supporting your argument with evidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The primary focus of this course is on clarity, organization, rhetorical patterns, style, and overall good writing practices in academic English. Students will also be expected to maintain a reading journal based on the readings provided by the instructor (from William Zinsser's "On Writing Well"). Each reading will be read outside of class and discussed together in groups and/or as a whole class. The essay writing in this class will utilize the process approach. Students will produce multiple drafts of each essay with each subsequent draft incorporating suggestions/revisions from classmates and/or the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Guidance/ Introductions	・ Syllabus and course explanation ・ General essay structure ・ Rd. Jackie Robinson's Free Minds and Hearts at Work ・ Free Minds and Hearts at Work class discussion ・ Draft 1
第2回	Summary &Response	・ How to write a summary and response ・ Peer review - What kind of things should we look for in ours and our classmates' writing? ・ Rd. Zinsser Chs. 1-2 ・ Draft 2
第3回	Summary &Response continued	・ Discuss Zinsser Chs. 1-2 ・ Comma usage ・ Summary &Response Final Draft
第4回	Critique Essay	・ Rd. Zinsser Chs. 3-4 ・ Discuss Zinsser Chs. 3-4 ・ Cutting clutter ・ Rd. Kaplan's Cultural Thought Patterns in Inter-Cultural Education ・ Find and read an article about contrastive and/or intercultural rhetoric ・ Introduce your article (summary and response)

第5回	Critique Essay continued	・ What is a critique and how to write one ・ Discuss Kaplan ・ When to use passive/active voice ・ Rd. Zinsser Chs. 5-7 ・ Draft 1
第6回	Critique Essay continued	・ Discuss Zinsser Chs. 5-7 ・ Citing sources (APA format) ・ Logos, Pathos, Ethos ・ Draft 2
第7回	Research Paper	・ Logical fallacies ・ Final draft
第8回	Research Paper continued	・ Logical fallacies continued ・ Organization of a research paper ・ Rd. Zinsser Chs. 8-9
第9回	Research Paper continued	・ Synthesizing sources ・ Discuss Zinsser Chs. 8-9 ・ Draft 1
第10回	Research Paper continued	・ Peer Review ・ Draft 2
第11回	Research Paper continued	・ Peer Review ・ Final Draft
第12回	Poster Presentation	・ Preparing a poster presentation
第13回	Poster Presentation continued	・ Work on poster presentations
第14回	Poster Presentation continued	・ Poster presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Course readings; essay writing; presentation preparation

【テキスト（教科書）】

William Zinsser On Writing Well, 25th Edition

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Summary &Response Essay: 20%

Critique Essay: 25%

Research Essay: 25%

Poster Presentation: 20%

Class Discussions: 10%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer, Webcam, Internet connection.

【その他の重要事項】

授業形態：対面/オンライン

【担当教員の専門分野等】

英語教育学

【研究テーマ】

CALL; Drama in Language Education

【主要研究業績】

Matsumura, Shoichi, and George Hann. 2004. Computer anxiety and students' preferred feedback methods in EFL writing. The Modern Language Journal 88: 403- 15.

【Outline (in English)】

In this class we will explore the world of English rhetoric, the art of effective communication. Understanding how people communicate is empowering to both readers and creators of texts. We will examine the ways in which others communicate and will critically analyze the methods they use so we can judge the effectiveness of their arguments. As you learn what works and what doesn't work in creating an effective argument in English, you will focus on applying those lessons within your own writing so that you may become an effective producer of English texts yourself.

SOC500E1 - 0201 (社会学 / Sociology 500)

社会学研究2

鷹田 佳典

備考（履修条件等）：修士課程「社会学特殊研究5」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「死にゆくこと・死・死別の社会学」をテーマに、死をめぐる諸現象の検討を通して、現代社会の特徴を理解するとともに、関連する社会学理論について学ぶ。

【到達目標】

- ・死をめぐる現代の状況について説明することができる。
- ・死にゆくこと、死、死別を対象とする社会学的議論を理解することができる。
- ・死に関する社会学的議論を自身の研究に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義、文献購読、個人発表を組み合わせで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要についての説明
第2回	講義	死にゆくこと・死・死別の社会学についての講義
第3回	文献購読	課題図書第2章についてディスカッションを行う。
第4回	文献購読	課題図書第3章についてディスカッションを行う。
第5回	文献購読	課題図書第4章についてディスカッションを行う。
第6回	文献購読	課題図書第5章についてディスカッションを行う。
第7回	文献購読	課題図書第6章についてディスカッションを行う。
第8回	文献購読	課題図書第7章についてディスカッションを行う。
第9回	文献購読	課題図書第8章についてディスカッションを行う。
第10回	文献購読	課題図書第9章についてディスカッションを行う。
第11回	個人発表	受講者がそれぞれの研究テーマについて発表する。
第12回	個人発表	受講者がそれぞれの研究テーマについて発表する。
第13回	個人発表	受講者がそれぞれの研究テーマについて発表する。
第14回	個人発表	受講者がそれぞれの研究テーマについて発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Walter, T. (2017) What Death Means Now: Thinking Critically about Dying and Grieving. Policy Press. (=2020 堀江宗正訳『いま死の意味とは』岩波書店)

【参考書】

澤井敦（2005）『死と死別の社会学－社会学理論からの接近－』青弓社
澤井敦・有末賢編（2015）『死別の社会学』青弓社
Seale, C. (1998) Constructing death: the sociology of dying and bereavement. Cambridge University Press.
副田義也編（2001）『死の社会学』岩波書店
Walter, T. (1999) On Bereavement. Buckingham: Open University Press.

【成績評価の方法と基準】

文献報告（35%）、毎回のディスカッションへの参加（30%）、個人の研究報告（35%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

医療社会学

<研究テーマ>

患者の死をめぐる医療者の経験、悲嘆理論、ナラティブ・セオリー、コミュニティ・ケア

<主要研究業績>

鷹田佳典（2015）『イギリスにおける死別の社会学の展開－T・Walterの議論を中心に』澤井敦・有末賢編『死別の社会学』青弓社: 27-53.
鷹田佳典（2020）『現代社会における悲嘆の個人化－「悲嘆の共同化」に向けての一試論－』『現代宗教2020』32: 83-109.
鷹田佳典（2021）『誰が医療者を癒すのか－コロナ禍で浮き彫りになった医療者のsufferingに着目して』『現代思想』49(2): 131-144.
鷹田佳典（2023）『部屋の中の象？－看取りの場における医療者の悲嘆』『治療』105(12): 1510-1513.

【Outline (in English)】

In this class, we will examine various phenomena surrounding death, with the theme of “the sociology of dying, death, and bereavement”, in order to understand the characteristics of modern society and learn about related sociological theories.

Grading will be decided based on literature report (35%), participation in each discussion (30%), individual research report (35%) .

SOC500E1 - 0202 (社会学 / Sociology 500)

社会学研究3

坂上 香

備考（履修条件等）：修士課程「社会学特殊研究6」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、犯罪への対応策を通して、犯罪と社会の関係性について考えていく。まず、メディアによって被害者と加害者のイメージがいかに作られてきたかを見ていく。次に、暴力(被害と加害)の連鎖の問題と、そこからの離脱(脱暴力)のアプローチを扱う。そして、刑事政策が従来の「罪と罰」の発想から「回復と成長」モデルへとシフトしている世界の潮流を鑑みながら、いくつかの具体例を紹介する。授業で主に扱うのは、被害者遺族による死刑廃止運動、回復共同体、修復的アプローチ、矯正施設における協働的アート、アポリシオンムーブメント、北欧モデルなど。講師が監督した映像を交え、現代における犯罪（および暴力一般）への眼差しや対応の変化を探っていくと同時に、調査方法としての映像についても学ぶ。

【到達目標】

- ・加害者や被害者のイメージの作られ方を理解する。
- ・暴力の連鎖の仕組みを学び、脱暴力のアプローチを学ぶ。
- ・新たな犯罪政策の実例に触れ、それぞれの発想や特徴を学ぶ。
- ・犯罪と社会の関係性について考察していく。
- ・質的調査法としての映像についても考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業で扱うテーマに関する映像やテキストを使い、講義、ディスカッション形式で進めていく。クリエイティブワークも一部取り入れる予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス&日本の刑務所と刑罰文化	自己紹介、授業の進め方、受講生の研究テーマや関心、日本の刑務所の現状、体感治安など
第2回	犯罪のイメージは作られる	映像分析という手法を使った編集のトリック&マジック
第3回	死刑とメディア①	映像1視聴——被害者による死刑廃止運動
第4回	死刑とメディア②	死刑制度を支えるイメージと被害者像、絶対的他者化
第5回	死刑とメディア③	死刑をめぐるエクササイズ&ディスカッション
第6回	加害者と更生をめぐる①	映像2視聴——回復共同体
第7回	加害者と更生をめぐる②	回復共同体 & ディスカッション
第8回	被害者と加害者とコミュニティ①	映像3——修復的司法
第9回	被害者と加害者とコミュニティ②	修復的アプローチ & ディスカッション
第10回	被害者と加害者とコミュニティ③	エモーショナル・リテラシーを使ったワーク & ディスカッション
第11回	現代の奴隷制としての刑務所と刑罰	米国の刑務所産業複合体とアポリシオン・ムーブメント
第12回	加害と被害と表現①	映像4——演劇と刑務所
第13回	加害と被害と表現②	ディスカッション
第14回	新しい潮流	刑務所とアート(協働的表現活動) 北欧モデル & ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用するテキストについては、学習支援システムを通して、もしくは授業で配布する。初日はあらかじめ見ておいて欲しい映像があるので、学習支援システムを通して、リンクを送る。

【参考書】

アーヴィング・ゴフマン、石黒毅訳 2001『スティグマの社会学 改訂版: 烙印を押されたアイデンティティ』セリカ書房
坂上香, 2024,『ジャーニー・オブ・ホープ 被害者遺族と死刑囚家族の回復への旅』岩波書店
坂上香,2022,『プリズン・サークル』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション（30％）、コメントシート（20％）、レポート（50％）、

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する可能性あり。初回に説明。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞犯罪と社会 ドキュメンタリー・スタディーズ

＜研究テーマ＞

脱暴力のアプローチ ポピュラーカルチャーにおける加害・被害の表象

＜主要研究業績＞

坂上香, 2024,『ジャーニー・オブ・ホープ 被害者遺族と死刑囚家族の回復への旅』岩波書店.

坂上香, 2024,「重罪を犯した人にこそ更生の機会をーカリフォルニア州の終身刑と仮釈放者の声」『こころの科学』, (239)80～85, 日本評論社.

坂上香,2022,『プリズン・サークル』岩波書店.

坂上香,2020,「警察や刑務所は、私たちの安全を守るか?: COVID-19パンデミック×BLM時代におけるアンジェラ・デイヴィスの問い」,『現代思想』, 48 (13), 97-106, 青土社.

【Outline (in English)】

This course will cover the relationship between crime and society through crime policy. First, it looks at how images of victims and perpetrators have been created by the media. It then deals with the issue of the cycle of violence (victimisation and perpetration) and approaches to disengaging from it. Some specific examples will then be presented in light of the global trend in which crime policy is shifting from the traditional ‘crime and punishment’ concept to a ‘recovery and growth’ model. The main topics covered in the course include the anti-death penalty movement by victims’ families, therapeutic communities, restorative approaches, collaborative art in correctional institutions, the Abolition Movement and the Nordic model. The course will explore changes in contemporary perspectives on and responses to crime (and violence in general), with documentaries directed by the lecturer, as well as learning about film production as a research method. Grading Criteria/Policy Discussion (30 %), Daily Comments (20%), Report (50%)

SOC500E1 - 0203 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法 1

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：修士課程「調査研究法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の研究において、受講生各自が社会調査を企画・設計し、実施をおこなうために必要な知識と技法を習得する。そのために社会学の優れた調査研究やそれに関連する方法論的な文献を講読し、社会学の各文献の問題関心とそこから導き出されたデータ収集・分析法について学ぶ。さらに、受講者が各自の問題関心に応じた調査の設計やデータ分析の方向性を構想するとともに、受講生同士のディスカッションを通してその具体化と洗練を図る。

【到達目標】

・優れた研究の講読を通して、それらが研究対象の特性と結びつけてどのような調査・分析を行っているか、その思考法を理解することができる。
・それらの理解を活かしつつ、学生が自身の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析の方法を構想し、洗練させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンラインでの演習の形式を採る。授業内での文献に関する受講生の発表、また受講生自身の研究テーマとりサーチデザインについての報告の発表に基づいて授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	総論 1	社会学と社会調査
第2回	総論 2	社会調査の諸類型
第3回	総論 3	社会調査の倫理
第4回	研究計画 1	研究テーマに関する先行研究のフローと課題の鮮明化
第5回	研究計画 2	既存統計データの加工・分析
第6回	フィールドワークの企画・設計 1	調査のテーマ、主旨と目的
第7回	フィールドワークの企画・設計 2	調査の範囲、予算とスケジュール
第8回	フィールドワークの企画・設計 3	調査研究法の選択
第9回	フィールドワークの実践 1	観察調査とインタビュー調査
第10回	フィールドワークの実践 2	テキストデータの分析
第11回	フィールドワークの実践 3	受講者の研究への応用に関する討論
第12回	社会関係を計量する 1	調査の実例から
第13回	社会関係を計量する 2	受講者の研究への応用に関する討論
第14回	各自の調査デザインの最終発表と相互討論	受講生各自がそれまでの講義内容を活かして、自分自身の研究テーマに即したりサーチデザインを報告し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

各回ごとに授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 50 %、報告の内容評価 50 %、十分に準備した報告を行い、修士論文に相応しい調査計画を立案できていること。

【学生の意見等からの気づき】

双方向的なコミュニケーションを重視し、履修者によるディスカッションへの積極的な参加を促す。

【学生が準備すべき機器他】

PCによるアクセスが必須。

【その他の重要事項】

専門社会調査士資格のH科目に該当する。
博士後期課程「社会調査法1」と合同で行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学、産業・労働社会学
<研究テーマ>産業再編成と労使関係、越境的な人の移動

<主要研究業績>『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021 年）

【Outline (in English)】

In this course, students will learn how to design surveys and analyze data by linking them to sociological research objectives and social theory. By the end of the course, students will understand the process of data collection and analysis in sociological research by reviewing classics and recent excellent research. In addition, students will develop their own research design and data analysis methods based on their own interests, and refine them through mutual discussion.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class presentation:50%, in class contribution:50%

SOC500E1 - 0204 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法2

胡中 孟徳

備考（履修条件等）：修士課程「統計分析法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会統計学の基礎を学びつつ、それを実際に社会調査によって得られたデータに適用する方法を学習する。これにより、社会学的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。社会現象を実際のデータを用いて分析することを通じ、理論的説明と実証分析の対応関係についての実践的な感覚を深める。

【到達目標】

主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と統計ソフト SPSS を用いた実習をおこない、それに対するフィードバックを通じて理解を深める。授業では、「SPSS：リモートデスクトップ」を利用する。利用方法は授業でも解説するが、あらかじめ自分のパソコンに「SPSS：リモートデスクトップ」をインストールしておくことを勧める。詳細は多摩情報センターウェブサイトで「SPSS：リモートデスクトップ」の「利用ガイド」を参照されたい。取り上げる手法は、履修者の理解状況などに応じて調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：社会学と多変量解析	
第2回	代表値と散布度	中心がどのあたりにあるのかと散らばりの程度に関する統計量を復習する
第3回	推測統計の基礎	推測統計の基礎について概説する
第4回	線形代数の基礎	線形代数の基礎知識とデータの関連について説明する
第5回	説明変数・目的変数と二変量重回帰モデル	二変量重回帰モデルの考え方について解説する
第6回	重回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線形代数を用い解説する
第7回	重回帰分析の導入	重回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第8回	最小二乗推定と多重共線性	回帰モデルの推定方法の1つであるOLSと、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第9回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第10回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第11回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第12回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第13回	探索的因子分析と確認的因子分析	探索的因子分析との比較により、確認的因子分析の概略を学ぶ
第14回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ、1990、『社会統計学』ハーベスト社。
片瀬一男編、2007、『社会統計学』放送大学教育振興会。
その他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用した授業内報告（40％）とレポート（60％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞教育社会学・生活時間研究
＜研究テーマ＞生活時間と格差
＜主要研究業績＞

中村高康・平沢和司・荒牧草平・中澤涉編『教育と社会階層: ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会（2018年、章分担執筆）。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods through secondary data analysis. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and reports (60%). The goal of this course is to understand the basics of multivariate analysis, mainly through the study of multiple regression and factor analysis. Your study time will be more than four hours for a class.

SOC500E1 - 0205 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法3

堀川 三郎

備考（履修条件等）：修士課程「質的資料分析法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査法の基本的理解と、その実践的力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得よう試みる。

【到達目標】

さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送などの質的データの分析法（内容分析等）を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説します。その上で、受講生のデータあるいは各自の関心がある領域の質的資料を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	質的調査とは何か	量的調査との違い／調査倫理の問題
第2回	質的調査法の歴史と到達点1	インタビュー／参与観察／ドキュメント分析／観察
第3回	質的調査法の歴史と到達点2	エスノグラフィー／ライフヒストリー／GTA／会話分析
第4回	実践的課題1（資料を集める）	質問とは何か／ラポールをめぐる論争／調査者の立ち位置
第5回	実践的課題2（資料を分析する）	記録をつくる／テーマをたてる／データの特性を整理する
第6回	実践的課題3（資料を記述する）	書くとはどういうことか／調査倫理ふたたび
第7回	ワークショップ1	データ・質的資料の持ち寄り
第8回	ワークショップ2	最初の感想とそこから見えるものの
第9回	ワークショップ3	どう記録をつくるのか
第10回	ワークショップ4	テーマをたてる
第11回	ワークショップ5	データの特性を理解する
第12回	ワークショップ6	改めてテーマをたてる
第13回	ワークショップ7	ふたたびデータの特性を考える
第14回	総合討論	質的調査法の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

1. 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的社会調査の方法』有斐閣

2. 佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法：理論・方法・実践』新曜社
3. 堀川三郎（2018）『町並み保存運動の論理と帰結』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

討議への参加（40%）、演習課題への取り組み（60%）

【学生の意見等からの気づき】

非該当（N/A）

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞環境社会学、都市社会学

＜研究テーマ＞歴史的環境保存の社会学、日米比較社会論

＜主要研究業績＞『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析』（東京大学出版会、2018年）、*Why Place Matters* (Springer, 2021)、『産業遺産の社会史』（共著、青弓社、2025年）など

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge of qualitative research methods.

First, students will understand development processes and current situations of qualitative survey methods including fieldwork such as interviews and participant observation as well as document analysis. Students will study and discuss important points in conducting qualitative research from practical perspectives. Workshops will be conducted based on data presented by students and/or the instructor, through which students will learn how to select and carry out appropriate methods.

Learning Objectives

Students will acquire basic understanding of various qualitative research methods and learn how to analyze qualitative data including newspaper and magazine articles, documents, films, broadcasting and music. Students are expected to achieve capabilities to apply actual analysis methods in some data types.

Learning Activities Outside Class

Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

Participation in discussions (40%) and exercises (60%)

SOC500E1 - 0206 (社会学 / Sociology 500)

社会学原典研究 1

二村 まどか

備考（履修条件等）：修士課程「社会学原典講読」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際問題や各国事情を幅広く扱う英国の新聞雑誌『The Economist』の記事を読みながら、難易度の高い英文に慣れ親しむと同時に、国際社会の時事問題についての理解を深める。

【到達目標】

短いながらも難易度の高い論説記事の英語に慣れ、要点を理解しながらメリハリをつけて読むことができるようになることを目指す。講読した文献の簡単な要約を【英文で】作れるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

3～4本の論説記事と1本の学術論文を読み終えることを目指す。重要・難解な箇所は逐語訳を行うが、通常は各文・パラグラフの要点をつかみながら、読み進める。また記事の内容の背景についても説明を行う。提出された課題のフィードバックも授業中に行う。授業計画及び扱うテキストや記事の内容は、受講者の関心分野に合わせて変更。調整する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）について
第2回	The Economist の記事 ①	テキストの和訳と内容把握
第3回	The Economist の記事 ①	テキストの和訳と内容把握
第4回	The Economist の記事 ①	テキストの和訳と内容把握
第5回	The Economist の記事 ②	テキストの和訳と内容把握
第6回	The Economist の記事 ②	テキストの和訳と内容把握
第7回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第8回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第9回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第10回	国際問題に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
第11回	The Economist の記事 ③	テキストの和訳と内容把握
第12回	The Economist の記事 ③	テキストの和訳と内容把握
第13回	The Economist の記事 ④	テキストの和訳と内容把握

第14回 The Economist の記事
④ テキストの和訳と内容把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。各文献を読み終えた後、【英文要約】（300-400 words）を提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英国の新聞雑誌『The Economist』の論説記事と国際問題を扱う学術雑誌の論文を用いる。テキストは授業で配布する。
なお、テキストの内容は、受講生の関心に合わせて変更する場合もある。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、テキストの和訳、リアクション・ペーパーのコメント、ディスカッションへの参加など）：30 %
課題の提出（各記事の英文要約）：70 %

【学生の意見等からの気づき】

履修者の研究テーマにできるだけ合わせて、テーマや文献を選びたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際関係論

<研究テーマ> 国際安全保障、平和構築、国際刑事裁判

【Outline (in English)】

This course uses articles from The Economist and academic journals to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. Students are required to go through the materials before the class and grasp the content and check the vocabulary. After reading each material, students are asked to submit a short summary in English. Students are assessed by submitted summaries and their class participation. The course is for those with advanced English level.

